

## 附 錄（樞密院ニ提出シタル参考書類）

- (一) 千九百三十年「ロンドン」海軍條約説明書
- (二) 「ロンドン」海軍條約摘要
- (三) 千九百三十年「ロンドン」海軍條約第十九條ノ解釋ニ關シ日、英、米三國間ニ交換セラ  
レタル書翰
- (四) 千九百三十年「ロンドン」海軍條約ニ依ル日、米、英兵力増減量及千九百三十六年末迄  
ノ代換建造量（權利）並廢棄量
- (五) 「ロンドン」海軍條約摘要參考艦船表

千九百三十年「ロンドン」海軍條約説明書

# 千九百三十年「ロンドン」海軍條約説明書

## 目 次

第一章 緒 言	一
第一節 「ロンドン」海軍會議ニ至ル海軍軍備問題ノ經過	一
第二節 「ロンドン」海軍會議經過	三
第二章 千九百三十年「ロンドン」海軍條約要旨	五
第一節 主力艦ニ關スル規定	五
第一 主力艦ノ代換ニ關スル規定	五
第二 主力艦ノ處分ニ關スル規定	六
第三 素約國ノ保有シ得ル主力艦	七
第二 現存主力艦ニ對スル航空機著艦設備ノ禁止	七
第三 航空母艦ニ關スル規定	七
第四 航空母艦ノ代換	八
第一 「ワシントン」條約ノ定ムル航空母艦ノ定義ノ改訂	八
第二 基準排水量一萬トン以下ノ航空母艦ノ取得又ハ建造ニ關スル規定	八
第三 航空母艦ノ武装ノ制限	九

第五 航空母艦ノ處分	九
第三節 補助艦船ニ關スル一般規定	九
第一 補助艦船ノ制限ニ關スル一般的規定	一〇
第二 巡洋艦及驅逐艦ノ定義	一〇
第三 日、英、米三國ガ保有シ得ル補助艦船ノ割當合計トン數	九
第四 右ノ保有量ヲ超過スル艦船ノ處分	一〇
第五 補助艦船ノ起工トン數	一一
第六 補助艦船ノ代換ニ關スル特別規定	一
第七 補助艦船ノ艦種間ニ於ケル融通	一
第八 基準排水量ニ關スル規定	一二
第九 各締約國ガ新艦船ニ關シ他ノ締約國ニ通告すべき事項	一二
第十 保障條項	一二
第四節 巡洋艦ニ關スル規定	一三
第一 巡洋艦艦種ノ定義	一三
第二 日、英、米三國ノ保有シ得ル巡洋艦艦種ノ合計トン數	一三
第三 日、英、米三國ノ保有シ得ル(甲)級巡洋艦ノ最大隻數	一三
第四 米國ノ(甲)級巡洋艦建造ニ關スル規定及米國ノ有スル選擇權ニ關スル規定	一三
第五 巡洋艦ニ於ケル航空機著艦裝備	一四
第六 巡洋艦艦種ニ於ケル起工トン數	一四
第七 巡洋艦ノ代換ニ關スル一般規定及代換特別規定	一四
第八 巡洋艦艦種及驅逐艦艦種間ノ融通	一四
第五節 駆逐艦ニ關スル規定	一四
第一 駆逐艦艦種ノ定義	一四
第二 日、英、米三國ノ保有シ得ル駆逐艦艦種ノ合計トン數	一四
第三 大型駆逐艦ノ保有量	一五
第四 駆逐艦艦種ニ於ケル起工トン數	一五
第五 駆逐艦ノ代換ニ關スル一般規則及代換特別規定	一五
第六 駆逐艦艦種及巡洋艦艦種間ノ融通	一五
第六節 潛水艦ニ關スル規定	一五
第一 潛水艦ノ排水量及備砲ノ制限	一五
第二 潛水艦ノ基準排水量ノ定義	一六
第三 日、英、米三國ノ保有シ得ル潛水艦艦種ノ合計トン數	一六
第四 潛水艦艦種ニ於ケル起工トン數	一六
第五 潛水艦ノ代換ニ關スル一般規則及代換特別規定	一六
第六 潛水艦ノ使用制限ニ關スル規定	一六
第七節 制限外艦船、特殊艦船及固定練習用施設又ハ「ハルク」ニ關スル規定	一七
第一 制限外艦船ニ關スル規定	一七
第二 特殊艦船ニ關スル規定	一八

第三 固定練習用施設又ハ「ハルク」ニ關スル規定……………110

第八節 代換ニ關スル一般規則……………110

第一 艦 艦……………110

第二 代換規則……………110

第三 右代換規則ノ適用範囲……………110

第九節 艦船ノ處分規則……………110

第一 艦船ノ處分ニ關スル規定……………110

第二 右ノ細則……………110

第十節 雜 则……………110

第一 本條約ノ效力存續期間ニ關スル規定……………110

第二 千九百三十五年ノ會議ニ關スル規定……………110

第三 本條約ノ批准ニ關スル規定……………110

第四 本條約ノ實施ニ關スル規定……………110

第五 本條約第三編ノ権利及義務ニ關スル規定……………110

第六 本條約第四編加入方勸誘ニ關スル規定……………110

第七 本條約ノ正文ニ關スル規定……………110

第七 千九百三十年「ロンドン」海軍條約說明書

第一章 緒 言

第一節 「ロンドン」海軍會議ニ至ル海軍問題ノ經過

大正十一年「ワシントン」ニ於テ日、英、米、佛、伊五國間ニ締結セラレタル海軍軍備制限ニ關スル「ワシントン」條約ハ主力艦及大型航空母艦ノ保有量ヲ制限シ此等ノ艦種ノ建造競争ヲ防止スルニ成功シタリト雖モ其ノ他ノ補助艦艦種ニ關シテハ其ノ單艦トン數ヲ一萬トン以下ト爲シ搭載砲口徑ヲ八インチ以下ニ限リタル外何等協定スル所ナカリシ爲「ワシントン」會議後數年ナラズシテ早クモ右艦種ニ關スル建造競争再び各主要海軍國ノ間ニ漸ク著シカラントスルノ傾向ヲ見ルニ至リタリ

此ノ時ニ當リ軍備縮少ノ實現ヲ其ノ最重要ナル使命ノ一トスル國際聯盟ハ陸、海、空ノ三軍ニ亘リ軍備縮少ヲ實現センガ爲會議ヲ開催センコトヲ企圖シ之ガ前提トシテ大正十五年五月軍備縮少會議準備委員會ヲ「ジュネーヴ」ニ開催シタルガ同委員會ハ其ノ討議ノ範圍廣汎ナルノミナラズ各主要國間ニ於ケル意見ノ相違甚シク何時具體的結果ニ到達スルコトヲ得ルヤ容易ニ豫見シ難キ情勢ナリシヲ以テ「ワシントン」會議ノ主催國タル米國政府ハ國際聯盟ニ依ル軍備縮少條約ノ成立ヲ待ツコトナク補助艦ノ制限ヲ主要海軍國間ニ協定シ同會議ノ事業ヲ完成スルノ急務ナルヲ認メ昭和二年二月「ワシントン」條約締約國ニ對シ同條約ニ包含セラレザル艦種ニ關スル制限ノ制定ヲ目的トスル商議ヲ開始センコトヲ提議シタリ右米國ノ提議ハ佛伊兩國ノ受諾スル所ト爲ラザリシト雖モ日英兩國政府ハ之ニ應シ同年六月二十日「ジュネーヴ」ニ於テタルニ拘ラズ調整ノ途ヲ發見スルコト能ハズ同年八月四日休會ノ已ムナキニ至リタリ同會議ニ於テ帝國全權ノ執リタル公

明ナル態度ガ帝國ニ對スル列國ノ信用ヲ深メタルノ一事ハ特証セザルベカラズ

斯クノ如ク「ジュネーヴ」會議ハ所期ノ成果ヲ收ムルコト能ハザリシト雖モ専門的問題ニ付テハ決定ヲ見ルニ至リタル重要事項鮮カラザルノミナラズ數週ニ瓦ル討議ノ間ニ各參加國ノ主張ヲ究明シ殊ニ巡洋艦問題ニ關シ英米兩國間ニ存スル意見ノ相違ヲ明確ニスルコトヲ得以テ將來ノ交渉ニ資スル所多大ナルモノアリタリ唯同會議ガ終ニ何等具體的協定ニ到達スル能ハザリシコトハ米國民ニ失望ヲ感ゼシムルト共ニ同國ノ大海軍論者ニ好簡ノ口實ヲ供シ昭和四年二月海軍建造法成立ノ原因ト爲リ牽テ英國國民ノ對米反感ヲ刺戟シ兩國ノ關係ニ不快ナル陰影ヲ投ズルノ情勢ヲ誘致シタリ

然ルニ昭和四年六月英國ニ於テ軍備縮少ノ實現及海軍問題ノ解決ニ依ル英米關係ノ改善ヲ其ノ重要ナル政綱中ニ掲ゲテ總選舉ニ臨ミタル労働黨首領「マクドナルド」氏内閣ヲ組織スルヤ同氏ハ國民ニ對スル右公約ノ實行ヲ以テ新内閣ノ著手スベキ第一事業ト爲シタル一方米國ニ於テモ同年三月大統領ニ就任シタル「フーヴィー」氏ハ「マクドナルド」首相ト同ジク軍備縮少促進ノ方針ヲ確立シ四月「ジュネーヴ」ニ開催セラレタル第六回國際聯盟軍備縮少準備委員會ニ於テ「ギブスン」代表ヲ通ジテ海軍軍備限問題ニ對スル其ノ協調的態度ヲ表明シタルノミナラズ大統領自ラ亦不戰條約ノ精神ヲ高調シ軍備縮少ノ必要ヲ力説スル所アリ右英米兩國政府當局ノ態度ハ軍備縮少實現ノ氣運ヲ急速進展セシメ六月二十四日新駐英米國大使「ドーズ」氏ノ「ロンドン」著任ヲ機トシテ兩國間ニ非公式會議開催セラルニ至リタリ

右非公式會議ハ爾後數箇月ニ亘リ繼續セラレ同年九月下旬ニハ「マクドナルド」首相米國ニ赴キ親シク「フーヴィー」大統領ト會見協議スル所アリ斯クシテ海軍軍備縮少協定ノ基礎ト爲ルベキ諸原則ニ關シ兩國間ニ一應ノ合意成立スルニ至リ同年十月七日英國政府ハ「ワシントン」條約締約各國政府ニ對シ同條約ニ規定セラレザル艦種ヲ考究シ竝ニ同條第二項ニ規定セラレタル問題ヲ協定及處理スル目的ヲ以テ「ロンドン」ニ會議ヲ開催センコトヲ提議シタリ

帝國政府ハ英米兩國間ノ海軍問題ニ關スル商議ヲ通シ兩國政府當局ト常ニ緊密ナル接觸ヲ保チ機宜ニ應ジテ我意見ヲ開示シ將來ノ會議開催ニ備ヘタルガ英國政府ノ會議招請ニ對シ同月十六日之ヲ受諾スルト共ニ重要ナル問題ニ關シテハ日英兩

國政府間ニ豫メ協定ノ素地ヲ作ランガ爲豫備的會議ヲ最重要視スル旨ヲ回答シ引續キ駐英松平大使ヲ通ジテ英國政府ト又之ニ並行シテ駐米出淵大使ヲ通ジテ米國政府ト夫々非公式交渉ヲ爲サシメタルノミナラズ特ニ米國政府當局トハ若櫻財部兩全權渡英ノ途「ワシントン」ニ於テ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ハシムル所アリ又兩全權著英後英國政府當局ト會談セシムル所アリタリ

## 第二節 「ロンドン」海軍會議經過

「ロンドン」海軍會議ハ昭和五年一月二十一日英國上院「ロイヤル・ギャラリー」ニ於テ英國皇帝陛下御親臨ノ下ニ開會セラレ日、英、米、佛、伊ノ參加國各全權ハ四月二十二日ノ最終總會ニ至ル迄約三箇月間連日公私ノ會合ニ依リテ會談ノ成功ニ努力スル所アリタリ

會議ノ公式機關トシテ設ケラレタルモノハ總會議ノ外議事方法及議事進行ニ關スル事務ヲ執掌スル各國首席全權會議、會議ノ實質的事務ヲ討議スル第一委員會並ニ第二委員會ニ屬スル専門委員會、法律委員會、條約起草委員會等ナルガ今次ノ會議ニ於テハ其ノ取扱フベキ問題ノ重要且機微ナル性質ニ鑑ミ主トシテ討議ハ之ヲ公式機關ニ依ラズ各國全權間ノ私的會議遲延トシテ進捗セズ論議ノ中心ヲ成シタル補助艦保有量ノ問題ニ至リテハ各國ノ主張甚シク縣隔シ妥協ノ困難ナルヲ思ハシメタリ而カモ此ノ難局ニ際シ二月十七日佛國ニ於テ「タルデュー」内閣辭職スルノ政變アリテ會議ハ一時休會ノ已ムナキニ至リ各國ノ輿論亦漸ク會議ノ成功ニ疑ヲ抱クニ至リタルヲ以テ二月二十六日首席全權會議ニ於テ「マクドナルド」首

タリ

今次ノ會議ニ於テハ「ワシントン」會議ニ於ケルト異リ會議主催國側ヨリ具體的制限案ノ提出無ク最困難ナル兵力量協定ニ關スル各國全權間ノ私的會合ニ依ル協議ノ進行抄拂シカラズ從テ之ニ關聯スル會議ノ目的及制限方式ノ問題ニ付テモ議事遲延トシテ進捗セズ論議ノ中心ヲ成シタル補助艦保有量ノ問題ニ至リテハ各國ノ主張甚シク縣隔シ妥協ノ困難ナルヲ思ハシメタリ而カモ此ノ難局ニ際シ二月十七日佛國ニ於テ「タルデュー」内閣辭職スルノ政變アリテ會議ハ一時休會ノ已ムナキニ至リ各國ノ輿論亦漸ク會議ノ成功ニ疑ヲ抱クニ至リタルヲ以テ二月二十六日首席全權會議ニ於テ「マクドナルド」首

相ハ爾後三週間位ノ内ニ何等カノ協定ニ達センガ爲先づ會議ヲ二組ニ分チ一ハ英、佛、伊ノ歐洲組、他ハ日、英、米ノ海洋組ト爲シ其ノ各組ニ於テ内交渉ヲ遂グ其ノ上ニテ双方ノ結果ヲ一括シテ五國協定ニ達スルノ順序ト爲サンコトヲ提議シ參加國ノ同意ヲ得タリ

是ヨリ先キ右ノ海洋組タル日、英、米三國ノ間ニ於テハ開會前ヨリ引續キ非公式交渉ヲ爲シ來リタルガ日米ノ主張餘リニ懸絶シタルガ爲容易ニ協議ヲ遂グルコトヲ得ズ双方各自國ノ立場ヲ繰リ返ヘスニ於テハ到底意見ノ合致ヲ期待スルコト能ハザル情勢ト爲リタルヲ以テ先づ日米間ノ妥協ヲ圖ル目的ヲ以テ兩國側ヨリ首席全權ニ非ザル一人ヲ指定シ双方共ニ自由ニ意見ヲ述べ而カモ其ノ意見ハ双方共何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ベク又何等自國政府乃至代表部ヲ拘束セザルコトトシ其ノ間ニ双方ノ同意シ得ベキ一致點ヲ發見スルニ努力スルコト爲リ前記二十六日ノ首席全權會議ノ決定ニ先チ二十五日ヨリ松平「リード」兩全權ノ間ニ右趣旨ノ自由會議ヲ開始シ約一箇月ニ亘リテ繼續セラレタルガ其ノ以前ヨリ行ハレタル日英間ノ齋藤「クレーギー」會議ト並行シテ協議ヲ進歩セシメタル結果四月上旬日、英、米三國ノ關スル限り補助艦保有量ニ關スル協定案ノ骨子ニ付合意ノ成立ヲ見タリ

他方歐洲組ニ於テモ各全權間ニ私的交渉連日行ハレタルガ佛國ノ老大ナル補助艦トン數ノ要求及之ト密接不離ノ關係ヲ有スル所謂保障協定ノ問題ニ關シ英、佛間ノ意見合致ヲ見ズ加之伊國ノ對佛均勢要求ノ難問題アリテ商議拂ラズ四月初メニ至リテハ遂ニ妥協不可能ノ情勢ト爲リタリ

歐洲組ニ於ケル事情斯クノ如キモノアリタルモ海洋組ニ於テハ既ニ前述ノ如ク完全ナル合意ノ成立ヲ見タル上專門委員會、法律委員會等ニ於ケル専門的事項ノ討議モ協定ノ基礎案ヲ得ル程度ニ達シタルヲ以テ先づ參加國間ニ合意ノ成立シタル事項ニ關シテ條約ヲ作成調印シ一旦會議ヲ中止シタル後引續キ佛伊兩國ニ於テモ日、英、米三國協定ト一致スベキ協定ニ到達スル爲ノ努力ヲ重ヌルコトニ決定シ右決定ニ基キ條約起草委員會ハ各種ノ假協定事項ヲ整理シ之ガ審議ヲ重ネタル後補助艦保有量ニ關スル日、英、米三國協定及主力艦、航空母艦、制限外艦船、特殊艦船及艦船ノ代換處分等技術的事

項ニ關スル五國協定並ニ潛水艦使用制限ニ關スル五國協定ヲ併セテ一個ノ條約案ヲ作成シ右條約案ハ參加各國政府ノ承認ヲ經タル後四月二十二日ノ最終總會議ニ於テ各國全權ノ記名調印ヲ得タリ

## 第二章 千九百三十年「ロンドン」海軍條約要旨

「ロンドン」海軍條約ハ帝國及英、米、佛、伊ノ五國ガ競爭的軍備ニ常ニ伴フ危險ヲ防止シ且負擔ヲ輕減センガ爲又「ワシントン」會議ニ依リ開始セラレタル事業ヲ進展セシメ且軍備ノ一般的ノ制限及縮少ノ漸進的實現ヲ容易ナラシメンガ爲昭和五年四月二十二日「ロンドン」ニ於テ其ノ全權委員ヲシテ署名セシメタル海軍軍備ノ制限及縮少ニ關スル條約ニシテ前文ノ外五編二十六條ヨリ成ル第一編ハ五條ヨリ成ル「ワシントン」條約修正ニ關スル五國協定、第二編ハ八條ヨリ成ル基準排水量、潛水艦艦型及備砲、制限外艦船、特殊艦船、代換及處分ノ方法等ニ關スル五國協定（代換規則、艦船ノ處分規則及特殊艦船ニ關スル三個ノ附屬書ヲ有ス）第三編ハ八條ヨリ成ル補助艦保有量ニ關スル日、英、米三國協定、第四編ハ一條ヨリ成ル潛水艦使用制限ニ關スル五國協定、第五編ハ四條ヨリ成ル條約ノ效力其ノ他ニ關スル規定ナリ其ノ要旨ヲ各艦船ニ關スル協定事項ニ依リテ示セバ次ノ如シ

### 第一節 主力艦ニ關スル規定

（第一編第一條乃至第三條）

#### 第一 主力艦ノ代換ニ關スル規定（第一條及第二條）

締約國タル日、英、米、佛、伊ノ五國ハ「ワシントン」條約ニ規定セラル主力艦代換トン數ノ龍骨据附ノ權利ヲ千

九百三十一年乃至千九百三十六年ノ期間中行使セザルコトヲ約ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ（第一條第一項）

(イ) 不慮ノ事變ニ依リ亡失シ又ハ破壊セラレタル艦船ノ代換ニ關スル「ワシントン」條約ノ規定ノ適用ノ場合（第一條第二項）

（第一編第一條乃至第三條）

(ロ) 佛蘭西國及伊太利國ガ「ワシントン」條約ノ規定ニ依リ千九百二十七年及千九百二十九年ニ起工ノ權利ヲ有スル代換ノ權利ハ代換トン數ノ起工ノ遲延ニ依リ失ハルルコトナク且舊艦ハ代換セラルルニ至ル迄ハ「ワシントン」條約ノ規定ニ依リ廢棄ノ期限ノ到來シタル場合ト雖モ保有セラルルコトヲ得(第二條第三號)

## 第二 主力艦ノ處分ニ關スル規定(第一條第一號)

### (一) 處分セラルベキ主力艦(第二條第一號)

日、英、米三國ハ各左ノ主力艦ヲ處分スベシ

日本國 比叡

英 國 「ベンボー」、「アイアン、デューク」、「マーバラ」、「エンペラー、オヴ、インディア」及「タイガー」  
米 國 「フロリダ」、「ユター」及「アーカーノー」又ハ「ワイオーミング」

前記艦船ハ「ワシントン」條約ノ規定ニ依リ專ラ標的用ニ變更セラレザル限り左ノ如ク廢棄セラルベシ(第二條第一號イ)

(イ) 米國ノ廢棄スベキ艦船中ノ一隻及英國ノ廢棄スベキ艦船中ノ二隻ハ本條約實施ノ時ヨリ十二月以内ニ「ワシントン」條約ノ規定ニ從ヒ之ヲ確定的ニ廢棄スベシ  
「ワシントン」條約ノ規定ニ從ヒ之ヲ確定的ニ廢棄スベシ

(ロ) 米國ノ廢棄スベキ艦船中ノ第二隻竝ニ英國ノ廢棄スベキ艦船中ノ第三隻及第四隻ニ付テハ右期間ハ本條約實施ノ時ヨリ夫々十八月及三十月トス

### (二) 處分セラルベキ主力艦中練習用ノ爲保有セラルルコトヲ得ルモノ(第二條第一號ロ)

(イ) 處分セラルベキ艦船中左ノ主力艦ハ練習用ノ爲保有セラルルコトヲ得

日本國 比叡

英 國 「アイアン、デューク」

米 國 「アーカンソー」又ハ「ワイオーミング」

(ロ) 練習用ノ爲保有セラルル艦船ハ後掲第九節第二ノ(五)(第二編第二附屬書第五款)ニ規定セラルル狀態ニ減勢セラルベシ右減勢スルノ作業ハ本條約實施ノ時ヨリ米國及英國ニ付テハ十二月以内ニ又日本國ニ付テハ十八月以内ニ之ヲ開始スベシ右作業ハ前記期間ノ満了ノ時ヨリ六月以内ニ完了セラルベシ

(ハ) 右艦船ノ何レカニシテ練習用トシテ保有セラレザルモノハ本條約實施ノ時ヨリ十八月以内ニ戰鬪任務ニ適セラルモノト爲サレ且三十月以内ニ確定的ニ廢棄セラルベシ

## 第三 締約國ノ保有シ得ル主力艦(第二條第二號)

日、英、米、佛、伊ノ五國ハ本條約ノ有效期間中「ワシントン」條約第二章第三節第二款ニ掲グラルル一切ノ現存主力艦ヲ保有スルコトヲ得但シ左記ヲ除ク  
(イ) 佛伊ガ前記第一ノ(ロ)ノ代換トン數ヲ建造スル場合ニ於テ「ワシントン」條約ノ規定ニ從ヒ處分セラルルコトヲ要スル舊艦

(ロ) 前記第二ノ處分セラルベキ艦船中廢棄ヲ要スル主力艦

## 第四 現存主力艦ニ對スル航空機著艦設備ノ禁止(第三條第三號)

千九百三十年四月一日ニ現存スル主力艦ニハ航空機著艦用ノ臺又ハ甲板ヲ裝備スルコトヲ得ズ

## 第二節 航空母艦ニ關スル規定

(第一編第三條乃至第五條竝ニ第一編第九條及第十一條)

第一 「ワシントン」條約ノ定ムル航空母艦ノ定義ノ改訂(第三條)

(一) 本條約ハ「ワシントン」條約ノ定ムル航空母艦ノ定義ヲ左ノ如ク改ム

「航空母艦」ナル用語ハ排水量ノ如何ヲ問ハズ特ニ且專ラ航空機ヲ搭載スルノ目的ヲ以テ設計セラレ且艦上ニ於テ航空機ノ發著シ得ル構造ヲ有スル一切ノ水上艦船ヲ包含ス（第三條第一號）

(二) 主力艦、巡洋艦又ハ驅逐艦ニ航空機ノ發著裝置ヲ爲スモ右艦船ガ専ラ航空母艦トシテ設計セラレタルカ又ハ改造セラレタルモノニ非ザル限り右艦船ヲ航空母艦ノ艦種ニ算入シ又ハ分類スルニ至ラシムルコトナシ（第三條第二號）

第二 基準排水量一萬トン以下ノ航空母艦ノ取得又ハ建造ニ關スル規定（第四條）

(一) 口徑六・一インチヲ超ユル砲ヲ搭載スル基準排水量一萬トン又ハ其以下の航空母艦ハ何レノ締約國モ之ヲ取得シ又ハ建造シ若ハ建造セシムルコトヲ得ズ

(二) 一切ノ締約國ニ付本條約ノ實施セラルル時ヨリ右(一)ノ航空母艦ハ何レノ締約國ノ法域内ニ於テモ之ヲ建造スルコトヲ得ズ

第三 航空母艦ノ武装ノ制限（第五條）

(一) 基準排水量二萬七千トンヲ超ユル航空母艦ノ武装ハ左記(二)ノ一般規定ニ從フモノトス但シ備砲中ニ口徑六・一インチヲ超ユルモノアルトキハ航空機防禦砲及口徑五インチ以下ノ砲ヲ除クノ外備砲ノ總數ハ八門ヲ超ユルコトヲ得ズ（「ワシントン」條約第九條及本條約第五條）

(二) 基準排水量一萬トンヲ超エニ二萬七千トンヲ超エザル航空母艦ノ武装ニ關スル一般規定  
口徑八インチヲ超ユル砲ヲ裝備スルコトヲ得ズ備砲中ニ口徑六・一インチヲ超ユルモノアルトキハ航空機防禦砲及口徑五インチ以下ノ砲ヲ除クノ外備砲ノ總數ハ十門ヲ超ユルコトヲ得ズ口徑六・一インチヲ超ユルモノナキトキハ砲數ニ制限ナシ以上何レノ場合ニ於テモ口徑五インチ以下ノ砲及航空機防禦砲ノ數ハ無制限トス（「ワシントン」條約第十條及本條約第五條）

#### 第四 航空母艦ノ代換（第九條）

航空母艦ノ代換ハ「ワシントン」條約ノ規定ニ依リ規律セラル

#### 第五 航空母艦ノ處分（第十一條）

後掲第九節ノ艦船ノ處分規則（第二編第二附屬書）ハ航空母艦ニモ適用セラル

#### 第三節 補助艦船ニ關スル一般規定

（第二編第六條、第九條、第十條、第十一條）  
（並ニ第三編第十四條乃至第二十一條）

#### 第一 補助艦船ノ制限ニ關スル一般的規定（第十四條）

日、英、米三國ノ海軍戰闘艦船ニシテ主力艦、航空母艦及制限外艦船以外ノモノハ第三編ニ規定セラルル所ニ從ヒ本條約ノ有效期間中制限セラルベシ

#### 第二 巡洋艦及驅逐艦ノ定義（第十五條）

本條約第三編ノ適用ニ付テハ巡洋艦及驅逐艦ノ定義ハ左ノ如シ

(イ) 巡洋艦トハ主力艦又ハ航空母艦以外ノ水上艦船ニシテ基準排水量千八百五十トンヲ超ユルカ又ハ口徑五・一インチヲ超ユル砲ヲ有スルモノヲ謂フ

巡洋艦艦種ハ之ヲ左ノ二級ニ分ツ

(甲) 級 口徑六・一インチヲ超ユル砲ヲ有スル巡洋艦

(乙) 級 口徑六・一インチヲ超エザル砲ヲ有スル巡洋艦

(ロ) 驅逐艦トハ基準排水量千八百五十トンヲ超ヘザル水上艦船ニシテ口徑五・一インチヲ超エザル砲ヲ有スルモノヲ謂フ

潛水艦ノ定義ニ關シテハ規定ナシ

第三 本條約第三編ノ締約國タル日、英、米三國ガ保有シ得ル補助艦船ノ割當合計トン數（第十六條第一號）

千九百三十六年十二月三十一日ニ於テ超過スベカラザル巡洋艦、驅逐艦及潛水艦ノ竣工トン數ハ左ノ如シ

(イ) 巡洋艦

(甲級)

日本國

十萬八千四百トン

英國

十四萬六千八百トン

米國

十八萬トン

(乙級)

日本國

十萬四百五十トン

英國

十九萬二千二百トン

米國

十四萬三千五百トン

(ロ) 驅逐艦

十五萬トン

日本國

十萬五千五百トン

英國

十五萬トン

米國

十五萬トン

(ハ) 潛水艦

日、英、米三國各五萬二千七百トン

第四 右ノ保有量ヲ超過スル艦船ノ處分（第十六條第二號）

右ノ保有量ヲ超過スル艦船ハ千九百三十六年十二月三十一日迄ニ漸次處分セラルベキモノトス

後掲第九節ノ處分規則（第二編第二附屬書）ハ右處分セラルベキ艦船ニ適用セラルベシ（第十一條）

第五 補助艦船ノ起工トン數（第十九條）

前掲第三ノ何レカノ艦種ニ於ケル起工トン數ハ左記ヲ超ユルコトヲ得ズ

(イ) 當該艦種ノ最大割當トン數ニ達スル爲ニ必要ナル量

(ロ) 千九百三十六年十二月三十一日前ニ艦齡ニ達スル艦船ヲ代換スル爲ニ必要ナル量但シ左ノ場合ハ右ノ規定ニ拘ハラズ起工スルコトヲ得

(イ) 後掲第六ノ場合

(ロ) 千九百三十七年、千九百三十八年及千九百三十九年ニ艦齡ニ達スル巡洋艦及潛水艦ニ對スル代換ノ場合

(ハ) 千九百三十七年及千九百三十八年ニ艦齡ニ達スル驅逐艦ニ對スル代換ノ場合

第六 補助艦船ノ代換ニ關スル特別規定（第二十條）

後掲第八節ノ艦船ノ代換ニ關スル一般規則（第二編第一附屬書）ニ拘ラズ

(イ) 英國ハ「フロビシア」及「エフィンガム」ヲ千九百三十六年中ニ處分スルコトヲ得又現ニ建造中ノモノヲ除キ千

九百三十六年十二月三十一日前ニ巡洋艦合計代換トン數九萬千トン迄ヲ竣工スルコトヲ得

(ロ) 日本國ハ千九百三十六年中ニ竣工セラルベキ新艦ニ依リ多摩ヲ代換スルコトヲ得

(ハ) 日本國ハ千九百三十六年十二月三十一日前ニ艦齡ヲ超過スル驅逐艦ヲ代換スル外千九百三十五年及千九百三十六年ノ各年ニ於テ千九百三十八年及千九百三十九年ニ艦齡ヲ超過スル艦船ノ一部ヲ代換スル爲五千二百トンヲ超エザルトン數ヲ起工スルコトヲ得

(二) 日本國ハ本條約ノ有效期間中潛水艦トン數一萬九千二百トンヲ超エザル起工ニ依リ代換ヲ繰リ上グルコトヲ得右トン數中一萬二千トンヲ超エザルモノハ千九百三十六年十二月三十一日迄ニ之ヲ竣工スルコトヲ得

## 第七 機動艦船ノ艦種間ニ於ケル融通（第十七條）

(乙)級巡洋艦ト駆逐艦トノ間ニ於テ融通ヲ行フコトヲ得但シ融通ハ融通ヲ受クベキ艦種又ハ艦級ノ割當合計トン數ノ一割ヲ超エ之ヲ行フコトヲ得ズ

## 第八 基準排水量ニ關スル規定（第六條）

(一)「ワシントン」條約第二章第四節ニ規定セラル基準排水量ノ決定ニ關スル規則ハ之ヲ各締約國ノ一切ノ水上艦船ニ適用ス

### (二)潛水艦ノ基準排水量（後掲第六節第二參照）

第九 各締約國ガ新艦船ニ關シ他ノ締約國ニ通告スベキ事項（第十條）

締約國ハ主力艦、航空母艦及制限外艦船以外ノ艦船ニシテ本條約ノ實施後締約國ニ依リ又ハ締約國ノ爲ニ起工セラレ又ハ竣工セラレタルモノノ起工ノ日及竣工ノ日ノ後夫々一月以内ニ左記事項ヲ他ノ締約國ニ通告スベキモノトス

(イ)龍骨据附ノ日及左ノ細目

#### 艦船ノ艦種別

トン及メートル式トンニ依ル基準排水量主要寸法即チ水線全長、水線ニ於ケル又ハ水線下ノ最大幅員基準排水量ニ於ケル平均吃水

#### 最大備砲口径

(ロ)竣工ノ日及右ノ日ニ於ケル當該艦船ニ關スル前記細目  
主力艦及航空母艦ニ付爲ナルベキ通知ハ「ワシントン」條約ニ從フ

## 第十 保障條項（第二十一條）

本條約ノ有效期間中本條約第三編ノ締約國タル日、英、米三國ノ何レカガ右第三編ニ依リ制限セラレタル艦船ニ關シ自國ノ安全ノ要件ガ日、英、米三國以外ノ何レカノ國ノ新艦建造ニ依リ重大ナル影響ヲ受ケタリト認ムル場合ニ於テハ右締約國ハ右艦船ノ艦種中ノ一又ハ二以上ニ於テ自國ノトン數ニ付爲ナルコトヲ要スル增加ニ關シ其ノ爲サントスル増加及之ガ理由ヲ特ニ明示シテ第三編中ノ他ノ締約國ニ通告シ右增加ヲ爲スノ權利ヲ有ス右ノ結果トシテ本條約第三編中ノ他ノ締約國ハ右明示セラレタル一艦種又ハ數艦種ヲ比例的ニ增加スルノ權利ヲ有スベク且右他ノ締約國ハ右ニ依リ生ジタル事態ニ關シ外交的手段ニ依リ相互ニ速ニ協議スベシ

### 第四節 巡洋艦ニ關スル規定

（第二編第十五條乃至第二十條）

## 第一 巡洋艦艦種ノ定義（第十五條）

### 第三節第二參照

第二 日、英、米三國ノ保有シ得ル巡洋艦艦種ノ合計トン數（第十六條第一號）

### 第三節第三(イ)參照

第三 日、英、米三國ノ保有シ得ル(甲)級巡洋艦ノ最大隻數（第十六條第三號）

日、英、米三國ノ保有シ得ル(甲)級巡洋艦ノ最大隻數ハ左ノ如シ

日本國 十二隻

英國 十五隻

第四 米國ノ(甲)級巡洋艦建造ニ關スル規定及米國ノ有スル選擇權ニ關スル規定（第十八條）

米國ハ(甲)級巡洋艦十五隻總トン數十五萬トンヲ千九百三十五年迄ニ竣工スルノ企圖ヲ有ス

米國ハ其ノ建造ノ権利ヲ有スル殘餘ノ(甲)級巡洋艦三隻ノ各隻ニ代フルニ(乙)級巡洋艦ノ一萬五千百六十六トンヲ以テスルコトヲ選擇スルコトヲ得

米國ガ其ノ建造ノ権利ヲ有スル殘餘ノ(甲)級巡洋艦三隻中ノ一隻又ハ二隻以上ヲ建造スル場合ニ於テハ第十六隻ハ千九百三十三年前ニハ起工セラレザルベク且千九百三十六年前ニハ竣工セラレザルベシ第十七隻ハ千九百三十四年前ニハ起工セラレザルベク且千九百三十七年前ニハ竣工セラレザルベシ第十八隻ハ千九百三十五年前ニハ起工セラレザルベク千九百三十八年前ニハ竣工セラレザルベシ

第五 巡洋艦ニ於ケル航空機著艦裝備(第十六條第五號)

巡洋艦艦種ニ於ケル割當合計トン數ノ二割五分ヲ超エザルモノハ之ニ航空機著艦用ノ臺又ハ甲板ヲ裝備スルコトヲ得

第六 巡洋艦艦種ニ於ケル起工トン數(第十九條)

第三節第五参照

第七 巡洋艦ノ代換ニ關スル一般規則及代換特別規定(第十九條、第二十條及第二編第一附屬書)

第三節第六、第六及第八節参照

第八 巡洋艦艦種及驅逐艦艦種間ノ融通(第十七條)

第三節第七参照

第五節 駆逐艦ニ關スル規定

(第二編第十五條乃至第十七條並ニ第十九條及第二十條)

第一 駆逐艦艦種ノ定義(第十五條)

第三節第二参照

第二 日、英、米三國ノ保有シ得ル駆逐艦艦種ノ合計トン數(第十六條第一號)

第三節第三(ロ)参照

第二 大型駆逐艦ノ保有量(第十六條第四號)

驅逐艦艦種ニ於テハ第三節第三(ロ)ニ掲グル割當合計トン數ノ一割六分ヲ超エザルモノハ之ヲ基準排水量千五百トンヲ超ユル大型駆逐艦ニ充ツルコトヲ得

千九百三十年四月一日ニ於テ竣工済又ハ建造中ノ大型駆逐艦ハ右一割六分ノ割合ヲ超ユルモノ之ヲ保有スルコトヲ得但シ新大型駆逐艦ハ右一割六分迄ノ引下ガ實現セラルルニ至ル迄ハ之ヲ建造シ又ハ取得スルコトヲ得ズ

第四 駆逐艦艦種ニ於ケル起工トン數(第十九條)

第三節第五参照

第五 駆逐艦ノ代換ニ關スル一般規則及代換特別規定(第十九條、第二十條及第二編第一附屬書)

第三節第五、第六及第八節参照

第六 駆逐艦艦種及巡洋艦艦種間ノ融通(第十七條)

第三節第七参照

第六節 潛水艦ニ關スル規定

(第二編第六條、第七條、第二編第一附屬書、第三編第十九條、第二十條及第四編第二十二條)

第一 潛水艦ノ排水量及備砲ノ制限(第七條)

(一) 潛水艦ノ最大基準排水量及備砲最大口径

基準排水量二千トンヲ超ユルカ又ハ口徑五・一インチヲ超ユル砲ヲ有スル潛水艦ハ何レノ締約國モ之ヲ取得シ又ハ之ヲ建造シ若ハ建造セシムルコトヲ得ズ又一切ノ締約國ニ付本條約ノ實施セラルル時ヨリ右潛水艦ハ左記(二)ノ(イ)ノ場合ノ外何レノ締約國ノ法域内ニ於テモ之ヲ建造スルコトヲ得ズ(第七條第一號及第四號)

## (二) 右ニ對スル特例

(イ) 締約國ハ基準排水量二千八百トンヲ超エズ 備砲口徑六・一インチヲ超エザル 潜水艦ヲ三隻迄保有シ、建造シ又ハ取得スルコトヲ得佛國ハ右三隻内ニ於テ既ニ進水セル二千八百八十トン備砲口徑八インチノ潛水艦一隻ヲ保有スルコトヲ得（第七條第二號）

(ロ) 締約國ハ千九百三十年四月一日ニ現有スル基準排水量二千トン以下ニシテ備砲口徑五・一インチヲ超ユル潛水艦ヲ保有スルコトヲ得（第七條第三號）

右(イ)及(ロ)ノ潛水艦ハ第三節第三(ハ)ノ一部トシテ計算セラルベキモノトス（第十六條第六號）

### 第一 潜水艦ノ基準排水量ノ定義（第六條第二號）

潛水艦ノ基準排水量トハ乗員充實セラレ、機關据附ケラレ且航海準備（一切ノ武器及彈藥、齊備品、儀裝品、乘員用ノ糧食、各種ノ需品竝ニ戰時ニ於テ搭載セラルベキ各種ノ要具ヲ含ム）完成シ唯燃料、潤滑油、清水又ハ「バラスト」用水ハ如何ナル種類ノモノタルヲ問ハズ之ヲ搭載セザル工事完成セル艦船（非防水構造内ノ水ヲ含マズ）ノ水上排水量ヲ謂フ

### 第二 潛水艦ノ基準排水量ニ於ケル起工トン數（第十九條）

#### 第三節第三(ハ) 參照

### 第三節第五及第六參照

### 第六 潜水艦ノ使用制限ニ關スル規定（第四編第二十二條）

左記ハ國際法ノ確立セル規則トシテ受諾セラル

- (一) 潜水艦ハ對商船行動ニ於テ水上艦船ガ從フベキ國際法ノ規則ニ從フコトヲ要ス
- (二) 水上艦船タルト潜水艦タルトヲ問ハズ軍艦ハ先づ乗客、船員及船舶書類ヲ安全ノ場所ニ移スニ非ザレバ商船ヲ沈没セシメ又ハ航行不能ナラシムルコトヲ得ズ但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- (イ) 商船ガ正當ニ停船ヲ要求セラレタル時ニ於テ之ヲ頑強ニ拒否スル場合
- (ロ) 臨檢若ハ搜索ニ對シ積極的ニ抗拒スル場合

本規定ノ適用ニ付テハ船ノ短艇ハ其ノ時ノ海上及天候ノ状態ニ於テ陸地ニ近接セルコトニ依リ又ハ乗客及船員ヲ船内ニ收容スルコトヲ得ル他ノ船舶ノ存在スルコトニ依リテ右乗客及船員ノ安全ガ確保セラルルニ非ザレバ安全ノ場所ト看做サズ

締約國ハ他ノ一切ノ國ニ對シ前記規則ニ其ノ同意ヲ表センコトヲ勸誘ス

### 第七節 制限外艦船、特殊艦船及固定練習用施設又ハ「ハルク」ニ關スル規定（第二編第八條、第十二條及第十三條）

#### 第一 制限外艦船ニ關スル規定（第八條）

- (イ) 左ノ艦船ハ制限ヲ免除セラル但シ之ニ對シ制限ヲ附スルコトアルベキ特別ノ協定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- (ロ) 基準排水量六百トン以下ノ海軍水上戰闘艦船
- 基準排水量六百トンヲ超ユルモ二千トンヲ超エザル 海軍水上戰闘艦船但シ左ノ特性ノ何レヲモ有セザル場合ニ限ル

- 一 口徑六・一インチヲ超ユル砲ヲ搭載スルコト
- 二 口徑三インチヲ超ユル砲ヲ四門ヲ超エ搭載スルコト

三 魚雷ヲ發射スル様設計セラレ又ハ裝置セラレタルコト

四 二十ノットヲ超ユル速力ヲ得ル様設計セラレタルコト

(ハ) 特ニ戦闘艦船トシテ建造セラレタルニ非ザル海軍ノ水上艦船ニシテ艦隊用務ノ爲ニ使用セラレ、軍隊輸送船トシテ使用セラレ又ハ戦闘艦船トシテノ用途以外ニ使用セラルモノ但シ左ノ特性ノ何レモ有セザル場合ニ限ル

一 口徑六・一インチヲ超ユル砲ヲ搭載スルコト

二 口徑三インチヲ超ユル砲ヲ四門ヲ超エ搭載スルコト

三 魚雷ヲ發射スル様設計セラレ又ハ裝置セラレタルコト

四 二十ノットヲ超ユル速力ヲ得ル様設計セラレタルコト

五 裝甲銃ニ依リ防護セラレタルコト

六 機雷ヲ敷設スル様設計セラレ又ハ裝置セラレタルコト

七 空中ヨリ航空機ノ著艦スル様裝置セラレタルコト

八 中央線上ニ航空機發進裝置一基ヲ又ハ各舷側ニ一基ヅツ即チ二基ヲ超エ搭載スルコト

九 航空機ヲ空中ニ進發セシムル何等カノ手段ヲ裝置シタル場合ニ三機ヲ超ユル航空機ヲ海上ニ於テ行動セシムル様設計セラレ又ハ改造セラレタルコト

## 第一 特殊艦船ニ關スル規定（第十二條）

(一) 締約國ノ保有スルコトヲ得ベキ特殊艦船ニ關スル一般規定（第十二條第一號）

締約國ハ第二編第三附屬書中ノ表ニ掲グラル艦船ヲ保有スルコトヲ得但シ右ノ表ヲ變更スルコトアルベキ補足協定成立スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

右保有セラルベキ特殊艦船ノトン數ハ制限ヲ附セラルルトン數中ニ包含セラルルコトナシ

## (二) 特殊艦船ノ建造、改造又ハ取得ノ制限ニ關スル一般規定（第十二條第二號）

特殊艦船保有ノ目的タル用途ニ充ツル爲今後建造セラレ、改造セラレ又ハ取得セラル艦船ハ何レモ特性ニ從ヒ第三節第三ノ保有トン數中ニ算入セラルベシ但シ右艦船ガ本節第一ニ掲グル制限外艦船ノ特性ヲ有スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

## (三) 日本国ニ關スル特別規定（第十二條第三號及第四號）

(イ) 機雷敷設艦阿蘇及常盤ヲ千九百三十六年十二月三十一日前ニ新機雷敷設艦ニ依リ代換スルコトヲ得各新艦ハ左ノ條件ニ適合スルモノタルコトヲ要ス

一 基準排水量五千トンヲ超エザルコト

二 速力二十ノットヲ超エザルコト

三 口徑六・一インチヲ超ユル砲ヲ搭載セザルコト

四 口徑三インチヲ超ユル砲ヲ四門ヲ超エ搭載セザルコト

五 魚雷ヲ發射スル様設計セラレ又ハ裝置セラレザルコト

右新艦船ハ特殊艦船ト看做シ其ノトン數ハ第三節第三ノ保有トン數中ニ算入セラルルコトナシ

阿蘇及常盤ハ代換竣工ノ時ニ於テ後揭第九節第二ノ(一)又ハ(二)(第二編第二附屬書第一款又ハ第二款)ニ從ヒ處分

セラルベシ

(ロ) 滄間、八雲、出雲、磐手及春日ハ球磨級ノ最初ノ三隻ガ新艦船ニ依リ代換セラレタルトキハ後揭第九節第二ノ

(一)又ハ(二)(第二編第二附屬書第一款又ハ第二款)ニ從ヒ處分セラルベシ右球磨級ノ艦船三隻ハ練習艦トシテ保有スル艦船ニ關スル所定ノ状態ニ減勢シ之ヲ練習艦トシテ使用ス

右球磨級ノ三隻ノトン數ハ第三節第三ノ保有トン數中ニ爾後包含セラレザルモノトス

### 第三 固定練習用施設又ハ「ハルク」ニ關スル規定（第十三條）

千九百三十年四月一日前ニ固定練習用施設又ハ「ハルク」トシテ使用セラレタル各種ノ型式ノ現存艦船ハ航海不能ノ状態ニ於テ保有セラルルコトヲ得。

#### 第八節 代換ニ關スル一般規則

（第二編第九條及第二編第一附屬書）

##### 第一 艦船

艦船ハ其ノ竣工ノ日後左記年數ガ經過シタルトキハ「艦船超過」ト爲レルモノト看做ナル  
(イ) 基準排水量三千トンヲ超エ一萬トンヲ超エザル水上艦船

一 千九百二十年一月一日前ニ起工セラレタルトキハ十六年

二 千九百十九年十二月三十一日後ニ起工セラレタルトキハ二十年

(ロ) 基準排水量三千トンヲ超エザル水上艦船

一 千九百二十一年一月一日前ニ起工セラレタルトキハ十二年

二 千九百二十年十二月三十一日後ニ起工セラレタルトキハ十六年

(ハ) 潛水艦 十三年

##### 第二 代換規則

(一) 艦船ハ右ノ艦齡ヲ經過スルニ非ザレバ代換スルコトヲ得ズ但シ左ノ場合ハ前記艦船ノ規定ニ拘ハラズ代換ノ起工ヲ爲スコトヲ得

(イ) 前掲第三節第六ノ場合

(ロ) 亡失又ハ不慮ノ事變ニ依ル破壊ノ場合

##### 第三 代換規則

(二) 代換ノ起工ハ代換セラルベキ艦船ガ艦齡ニ達スル年ノ三年ノ期間前ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ズ右ノ期間ハ基準排水量三千トンヲ超エザル代換水上艦ノ場合ハ二年トス

(三) 艦船ニシテ之ガ保有ノ結果當該艦種ニ付許サレタル最大限トン數ヲ超過スルニ至ルモノハ代換トン數ノ竣工又ハ取得ノ時ニ於テ後掲第九節ノ規定（第二編第二附屬書）ニ從ヒ之ヲ處分スベシ但シ本條約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限り在ラズ（第三節第四参照）

(四) 代換ノ權利ハ代換起工ノ遲延ニ依リ失ハルルコトナシ

##### 第二 右代換規則ノ適用範囲（第二編第九條）

右ニ掲グラル代換規則ハ航空母艦ヲ除ク外基準排水量一萬トンヲ超エザル艦船ニ之ヲ適用ス航空母艦ノ代艦ハ「ワシントン」條約ニ依リ規律セラル

#### 第九節 艦船ノ處分規則

（第二編第二附屬書）

##### 第一 艦船ノ處分ニ關スル規定

(一) 本條約ハ左ノ方法ニ依リ艦船ヲ處分スルコトヲ規定ス

一 廢棄スルコト（沈没セシメ又ハ解體スルコト）

二 艦船ヲ「ハルク」ニ變更スルコト

三 艦船ヲ專ラ標的用ニ變更スルコト

四 艦船ヲ專ラ實驗用ノ爲保有スルコト

五 艦船ヲ專ラ練習用ノ爲保有スルコト

(二) 主力艦以外ノ處分セラルベキ何レノ艦船モ當該締約國ノ選擇ニ依リ廢棄セラルルカ又ハ「ハルク」ニ變更セラル

ルコトヲ得

(三) 主力艦以外ノ艦船ニシテ標的用、實驗用又ハ練習用ノ爲保有セラレタルモノハ終局ニ於テハ廢棄セラルルカ又ハ「ハルク」ニ變更セラルベシ

第二一 右ノ細則（第二編第一附屬書第一款乃至第五款）

(一) 廢棄セラルベキ艦船ニ關スル規定（第二編第二附屬書第一款）

(イ) 代換ノ事由ニ基キ廢棄ニ依リ處分セラルベキ艦船ハ其ノ代艦ノ竣工又ハ其ノ代艦一隻ヲ超ユル場合ニハ該代艦中ノ第一隻ノ竣工ノ日後六月以内ニ戰鬪任務ニ堪ヘザルモノト爲サルルコトヲ要ス但シ右一隻又ハ數隻ノ新艦ノ竣工ガ遲延セラレタル場合ニ於テハ舊艦ヲ戰鬪任務ニ堪ヘザルモノト爲スノ作業ハ右遲延ニ拘ラズ右一隻ノ新艦又ハ數隻ノ新艦中ノ第一隻ノ龍骨ノ据附ノ日ヨリ四年半以内ニ完了セラルベシ尤モ右一隻ノ新艦又ハ數隻ノ新艦ノ何レカガ基準排水量三千トンヲ超エザル水上艦船ナル場合ニ於テハ右期間ハ三年半ニ短縮セラル

(ロ) 廢棄セラルベキ艦船ハ左ノ諸物件ガ撤去セラレ且陸揚セラレタルカ又ハ艦内ニ於テ破壊セラレタルトキハ戰鬪任務ニ堪ヘザルモノト看做サルベシ  
一 一切ノ砲及砲ノ主要部分、射擊指揮所竝ニ一切ノ砲塔ノ旋回部  
二 一切ノ砲塔操作用ノ水壓機械又ハ電力機械  
三 一切ノ射擊指揮要具及測距儀  
四 一切ノ彈藥、爆藥、機雷及機雷敷設用軌道  
五 一切ノ魚雷、實川頭部、魚雷發射管及發射管旋回盤用軌道  
六 一切ノ無線電信裝置  
七 一切ノ主要推進機械又ハ之ガ代トシテ裝甲司令塔及一切ノ舷側裝甲鋸

八 一切ノ航空機用「クレーン」、「デリック」、昇降機及發進裝置並ニ一切ノ航空機著艦用若ハ離艦用ノ臺及甲板又ハ此等ノ代トシテ一切ノ主要推進機械

九 潛水艦ニ付テハ右ノ外一切ノ主要蓄電池、空氣壓控裝置及「バラスト、ポンブ」

(ハ) 廢棄ハ艦船ヲ戰鬪任務ニ堪ヘザルモノト爲スノ作業ノ完了期限ノ到來ノ日ヨリ十二月以内ニ左ノ方法ノ何レカニ依リ確定的ニ實行セラルベシ

一 艦船ヲ永久ニ沈沒セシムルコト  
二 艦船ヲ解體スルコト 解體ハ一切ノ機械、汽罐及裝甲並ニ一切ノ甲板、舷側及艦底ノ鋸ノ破壞又ハ撤去ヲ常ニ包含スベシ

(二) 「ハルク」ニ變更セラルベキ艦船ニ關スル規定（第二編第二附屬書第二款）

「ハルク」ニ變更スルコトニ依リ處分セラルベキ艦船ハ右(一)(ノロ)(六、七及八ヲ除ク)ニ規定セラルル條件ガ充サレ且左記ガ實行セラレタルトキハ確定的ニ處分セラレタルモノト看做サルベシ

一 一切ノ推進軸、推力承、「タービン」減速裝置又ハ推進用主電動機及主機械ノ「タービン」又ハ蒸氣笛ヲ修繕シ得ザル程度ニ損壞スルコト

二 推進機張出承ヲ撤去スルコト

三 一切ノ航空機用昇降機ヲ撤去シ且解體スルコト並ニ一切ノ航空機用「クレーン」、「デリック」及發進裝置ヲ撤去スルコト

本艦船ハ艦船ヲ戰鬪任務ニ堪ヘザルモノト爲スコトニ關シ右(一)ニ於テ規定セラルル所ト同一ノ期限迄ニ前記狀態ト爲サルルコトヲ要ス

(三) 標的用ニ變更セラルベキ艦船ニ關スル規定（第二編第二附屬書第三款）

(イ) 専ラ標的用ニ變更スルコトニ依リ處分セラルベキ艦船ハ左記物件ガ撤去セラレ且陸揚セラレタルカ又ハ艦内ニ於テ使用不能ノモノト爲サレタルトキハ戰闘任務ニ堪ヘザルモノト看做サルベシ

一 一切ノ砲

二 一切ノ射撃指揮所及射撃要具並ニ主要射撃指揮通信電線

三 砲架操作用又ハ砲塔操ノ一切ノ機械

四 一切ノ彈薬、爆薬、機雷、魚雷及魚雷發射管

五 一切ノ航空用設備及附屬物件

本艦船ハ艦船ヲ戰闘任務ニ堪ヘザルモノト爲スコトニ關シ右(一)ニ於テ規定セラル所ト同一ノ期限迄ニ前記狀態ト爲サルルコトヲ要ス

(ロ) 各締約國ガ「ワシントン」條約ニ依リ既ニ有スル權利以外ニ各締約國ハ專ラ標的用ノ爲左記ヲ何時ニテモ同時ニ保有スルコトヲ許サル

一 三隻ヲ超エザル艦船（巡洋艦又ハ驅逐艦）但シ右三隻中一隻ニ限リ基準排水量三千トンヲ超ユルコトヲ得

二 潛水艦一隻

(ハ) 標的用ノ爲艦船ヲ保有シタルトキハ當該締約國ハ之ヲ再ビ戰闘任務用ニ變更セザルコトヲ許サル

實驗用ノ爲保有セラルル艦船ニ關スル規定（第二編第二附屬書第四款）

(四) (イ) 專ラ實驗用ニ變更スルコトニ依リ處分セラルベキ艦船ハ右(三)ノ(イ)ノ規定ニ從ヒ處理セラルベシ

(ロ) 一般的規則ヲ妨グルコトナク且他ノ締約國ニ適當ノ通告ガ爲サルルコトヲ條件トシ右(三)ノ(イ)ニ規定セラルル狀態トノ相當ハ特別ノ實驗用ノ爲必要ナルコトアルベキ範圍内ニ於テ一時の措置トシテ許サルルコトヲ得

右規定ヲ利用スル何れノ締約國モ右相違ノ全細目及右相違ヲ必要トスル期間ヲ提示スルコトヲ要ス

(ハ) 各締約國ハ專ラ實驗用ノ爲左記ヲ何時ニテモ同時ニ保有スルコトヲ許サル

一 二隻ヲ超エザル艦船（巡洋艦又ハ驅逐艦）但シ右二隻中一隻ニ限リ基準排水量三千トンヲ超ユルコトヲ得

二 潜水艦一隻

(イ) 英國ハ實驗用ノ爲ノ必要ナキニ至ル迄主砲及砲架ノ既ニ損壞セラレタル「モニター」艦「ロバーツ」並ニ水上飛行機母艦「アーヴィング」ヲ其ノ現狀ニ於テ保有スルコトヲ許サル右二隻ノ艦船ヲ保有スルコトハ前記

(ハ) ニ依リ許サレタル艦船ノ保有ヲ妨グルモノニ非ズ

(ホ) 實驗用ノ爲艦船ヲ保有シタルトキハ當該締約國ハ之ヲ再ビ戰闘任務用ニ變更セザルコトヲ約ス

練習用ノ爲保有セラルル艦船ニ關スル規定（第二編第二附屬書第五款）

(五) (イ) 締約國ガ「ワシントン」條約ニ依リ既ニ有スル權利以外ニ各締約國ハ專ラ練習用ノ爲左ノ艦船ヲ保有スルコトヲ許サル

日本國 主力艦一隻（比叡）及巡洋艦三隻（球磨級）

英國 主力艦一隻（「アイアン、デューク」）

米國 主力艦一隻（「アーカンソー」又ハ「ワイオミング」）

佛國 水上艦船二隻 内一隻ハ基準排水量三千トンヲ超ユルコトヲ得

伊國 水上艦船二隻 内一隻ハ基準排水量三千トンヲ超ユルコトヲ得

(ロ) (イ) ノ規定ニ依リ練習用ノ爲保有セラレタル艦船ハ該艦船ガ處分セラルルコトヲ要スル日ヨリ六月以内ニ左ノ如ク處理セラルベシ

主 力 艦

左記ヲ實行スベシ

- 一 主砲、一切ノ砲塔ノ旋回部及砲塔操作用機械ノ撤去但シ砲塔三基ハ兵装ノ儘各艦ニ存置セラルルコトヲ得
- 二 艦内ニ残存スル砲ニ射撃訓練ノ爲要スル量ヲ超ユル一切ノ弾薬及爆薬ノ撤去
- 三 司令塔並ニ最前部及最後部ノ砲塔間ノ舷側装甲帶ノ撤去
- 四 一切ノ魚雷發射管ノ撤去又ハ損壊
- 五 最高速力十八ノットヲ得ルニ要スル數ヲ超ユル一切ノ汽罐ノ撤去又ハ艦内ニ於ケル損壊
- 日本國、佛國及伊國ニ依リ保有セラルル他ノ水上艦船
- 左記ヲ實行スベシ
- 一 砲ノ半數ノ撤去但シ主要口徑砲四門ハ各艦船ニ存置セラルルコトヲ得
- 二 一切ノ魚雷發射管ノ撤去
- 三 一切ノ航空用設備及附屬物件ノ撤去
- 四 氣罐ノ半數ノ撤去
- (ハ) 關係締約國ハ本(五)ノ規定ニ依リ保有セラルル艦船ガ戰闘用ノ爲使用セラレザルベキコトヲ約ス
- 第十節 雜則
- (第五編第二十二條乃至第二十六條)
- 第一 本條約ノ效力存續期間ニ關スル規定（第二十三條第一項）
- 本條約ハ千九百三十六年十二月三十一日迄效力ヲ有ス但シ左ノ例外アリ
- (イ) 第四編ハ無期限ニ引續キ效力ヲ有ス
- (ロ) 第三條、第四條及第五條ノ規定並ニ航空母艦ニ關スル限り第十一條及第二編第二附屬書ノ規定ハ「ワシントン」條約ト同一ノ期間内引續キ效力ヲ有ス
- 第二 千九百三十五年ノ會議ニ關スル規定（第二十三條第二項）
- 締約國ハ其ノ全部ガ締約國ト爲ルベキ一層一般的ナル海軍軍備制限協定ニ依リ別段ノ取極ヲ爲サザル限り本條約ニ代リ且本條約ノ目的ヲ遂行スル新條約ヲ作成スル爲千九百三十五年ニ會議ヲ開催スベシ但シ本條約ノ何レノ規定モ右會議ニ於ケル何レノ締約國ノ立場ヲモ拘束スルコトナカルベシ
- 第三 本條約ノ批准ニ關スル規定（第二十四條第一號）
- 本條約ハ締約國ニ依リ各自ノ憲法上ノ手續ニ從ヒ批准セラルベク且批准書ハ成ルベク速ニ「ロンドン」ニ於テ寄託セラルベシ一切ノ批准書寄託調書ノ認證謄本ハ一切ノ締約國ノ政府ニ送付セラルベシ
- 第四 本條約ノ實施ニ關スル規定（第二十四條第二號及第三號）
- (一) 日本國皇帝陛下、英國皇帝陛下及米國ノ批准書ガ寄託セラレタル時直ニ本條約ハ右締約國ニ付實施セラルベシ
- (二) 佛國及伊國ノ批准書ガ前號ニ掲グラルル實施ノ日ニ於テ寄託済ナルトキハ本條約ノ第一編、第二編、第四編及第五編ハ右ノ日ニ於テ右兩國ニ付實施セラルベク然ラザル場合ニ於テハ右諸編ハ右兩國ノ各ニ付其ノ批准書ノ寄託アリタル時ニ於テ實施セラルベシ
- 第五 本條約第三編ノ權利及義務ニ關スル規定（第二十四條第四號）
- (一) 本條約第三編ヨリ生ズル權利及義務ハ日本國、英國及米國ニ局限セラル
- (二) 締約國ハ右(一)ニ掲グラルン締約國ノ右第三編ニ依リ負擔スル義務ガ佛國及伊國トノ關係ニ於テ右(一)ノ締約國ヲ拘束スル日及條件ニ關シ協定ヲ爲スベシ右協定ハ同時ニ佛國及伊國ノ他ノ締約國トノ關係ニ於ケル同様ノ義務ヲ決定スベシ
- 第六 本條約第四編加入方勸誘ニ關スル規定（第二十五條）
- 一切ノ締約國ノ批准書ノ寄託後英國政府ハ本條約第四編ニ掲グラルル規定ヲ右條約ノ署名國ニ非ザル一切ノ國ニ通知

シヲ確定的ニ且無期限ニテ右規定ニ加入スルコトヲ右一切ノ國ニ對シ勸誘スベシ

右加入ハ英國政府ニ宛テタル宣言書ニ依リ行ハルベシ

第七 本條約ノ正文ニ關スル規定（第二十六條）

本條約ハ佛語及英語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ英國政府ノ記録ニ寄託保存セラルベシ右本文ノ認證謄本ハ一切ノ締約國ノ政府ニ送付セラルベシ

ロ

ン

ド

ン

海

軍

條

約

摘

要

		<b>「ロンドン」海軍條約摘要</b>
第一編　主力艦航空母艦ニ關スル規定		
第二條　主力艦ノ處分		
	第一條　主力艦ノ代換建造	
		「ワシントン」條約規定ノ主力艦代換ノ起工ヲ一九三六年（同年ヲ含ム）迄延期ス 但シ (イ) 不慮ノ事變ニ依ル亡失破壊ノ際ハ即時代換スルコトヲ得 (ロ) 佛伊ハ「ワシントン」條約ニ基ク一九二九年ニ於ケル代換建造ノ權利ヲ失ハス
		(一) 處分セラルヘキ主力艦 (日) 比叡 (米) フロリダ、ユター及アーカンソー又ハ「ワイオーミング」 (英) ベンボー、アイアンデューク、マーパラ、エンペラー、オヴ、インディア、 「タイガ」
		(a) 右ノ艦船ハ「ワシントン」條約ノ規定ニ依リ專ラ標的用ニ變更セラレサル限り廢棄スヘシ 第一群（米一隻、英二隻）ハ條約實施ノ時ヨリ十二月以内ニ戰闘任務ニ適セサルモノトナシ 二十四月以内ニ確定的ニ廢棄スヘシ 第二群（米一隻、英二隻）ニ付テハ前記ノ期間ハ夫々十八月及三十ヶ月トス

<p><b>第六條 基準排水量ノ定義</b></p> <p>(c) (b) (a) 水上艦船ノ基準排水量 潛水艦ノ基準排水量 艦船ハ基準状態ニ在ル際ノ該艦船ノ排水量噸數ニテ計測セラル</p>	<p><b>第一編 基準排水量、潛水艦々型、制限外艦船、特殊艦船ニ關スル規定</b></p> <p>附屬書 代換及處分規則並ニ各國特殊艦船表</p>	<p><b>第四條 口徑六・一吋(一五五耗)ヲ超ユル備砲ヲ有スル一萬噸以下ノ航空母艦ノ建造禁止</b></p> <p><b>第五條 航空母艦ノ備砲制限</b></p> <p>「ワシントン」條約及本條約第四條ニ依リ認メラレタル備砲ヨリ有力ナル砲ヲ搭載スヘカラス</p>	<p><b>(三) 現存主力艦ニハ航空機ノ着艦装置ヲ附スルコトヲ得ス</b></p>	<p><b>第三條 航空母艦ノ定義</b></p> <p>(一) 同條約ニ依ル佛伊ノ新艦建造ニ依リ廢棄セラルヘキ舊主力艦 上ニ於テ航空機ノ發着シ得ル構造ヲ有スル一切ノ水上艦船ヲ謂フ (ロ) 本條約ニ掲グラレタル日英米ノ廢棄スヘキ主力艦</p> <p>(二) 代換ノ起工ノ遲延ニ依リ代換ノ權利ヲ失フコトナク又此場合其ノ舊艦ハ艦齡超過ニ拘ラズ代換セラルニ至ル迄ハ保有スルコトヲ得 (イ) 同條約ニ依ル佛伊ノ新艦建造ニ依リ廢棄セラルヘキ舊主力艦 本條約ニ掲グラレタル日英米ノ廢棄スヘキ主力艦</p> <p>(三) 代換ノ起工ノ遲延ニ依リ代換ノ權利ヲ失フコトナク又此場合其ノ舊艦ハ艦齡超過ニ拘ラズ代換セラルニ至ル迄ハ保有スルコトヲ得 <b>例外</b> (ロ) 本條約ニ掲グラレタル日英米ノ廢棄スヘキ主力艦</p>
---	--	---	--	---

第七條

潛水艦ノ艦型及備砲制限

排水量二千噸ヲ超エ又ハ口徑五・一吋（一三〇耗）ヲ超ユル砲ヲ搭載スル潛水艦ハ取得建造スルコトヲ得ス

例外

(イ) 締約各國ハ二千八百噸ヲ超エサル潛水艦三隻ヲ限り保有スルコトヲ得ヘシ但シ右潛水艦ノ備砲ハ口徑六・一吋（一五五耗）ヲ超ユルコトヲ得ス又佛ハ例外トシテ右三隻中ニ既ニ進水シタル八吋（一〇三耗）砲搭載ノ二千八百八十噸潛水艦一隻ヲ包含セシムルコトヲ得  
(ロ) 排水量二千噸以下ニシテ口徑五・一吋（一三〇耗）ヲ超ユル砲ヲ搭載スル現有潛水艦ハ例外トシテ保有スルコトヲ得

第八條

制限外艦船

左ノ艦船ハ別段ノ協定ヲ爲サナル限り制限外艦船トス  
(イ) 排水量六百噸以下ノ海軍水上艦船  
(ロ) 排水量六百噸ヲ超ユルモ二千噸ヲ超エサル海軍水上艦船ニシテ所定ノ特性ヲ有セナルモノ  
(ハ) 特ニ戰闘艦船トシテ建造セラレタルニ非ナル海軍ノ水上艦船ニシテ艦隊要務ノ爲ニ使用セラレ、軍隊輸送船トシテ使用セラレ又ハ戰闘艦船トシテノ用途以外ノ用途ニ使用セラルモノ但シ所定ノ特性ヲ有セナルモノ

第九條  
代換規定適用ノ範圍

第一附屬書ノ代換規定ハ一萬噸ヲ超エサル艦船ニ適用ス但シ航空母艦ハ華府條約ノ規定ニ依ル

第十條

起工期、竣工期及

要目ノ通報

條約實施後締約國ニ依リ又ハ締約國ノ爲ニ起工セラレ又ハ竣工セラレタル補助艦ノ起工期、竣工期及要目ヲ他ノ締約國ニ通知スルコトヲ要ス主力艦及航空母艦ニ付テノ通知ハ「ワシントン」條約ノ規定ニ依ル

第十一條

處分規則適用ノ範圍

第二附屬書ノ處分規則ハ航空母艦ヲ含ミ本條約ニ依リ處分セラルヘキ一切ノ艦船ニ適用ス但シ主力艦ニ關シテハ本條約第一條及第二條ヲ適用ス

第十二條

特殊艦船ノ保有及  
代換

(ア) 第三附屬書ニ掲クル特殊艦船ハ別段ノ協定ヲ爲サナル限り保有スルコトヲ得ヘク且其ノ噸數ハ制限ヲ附セラルル何レノ艦種ノ保有量ニモ繰入ルコトナシ  
(イ) 特殊艦船ハ既存艦ニ止メ將來之カ代換ヲ認メス  
(シ) 日本ニハ例外トシテ敷設艦阿蘇、常磐ノ代換ヲ認ム（單艦排水量五千噸以内其ノ性能ハ第八條（ロ）ノ規定ニ從フコト）  
(ド) 球磨級最初ノ三隻ハ新艦ニ依リ代換セラレタル後淺間級五隻ノ代ソニ練習艦トシテ保有ス

第十三條

現存「ハルク」等ノ  
保有

一九三〇年四月一日前ニ固定練習用施設又ハ「ハルク」トシテ使用セラレタル各種型式ノ現存艦船ハ航海不能ノ状態ニ於テ保有スルコトヲ得

第一附屬書  
代換規定

第一款  
艦船

(a) 三千噸ヲ超エ一萬噸ヲ超エナル水上艦船

一九二〇年一月一日ヨリ前ニ起工ノモノ……………艦齡十二年

一九一九年十二月三十日ヨリ後ニ起工ノモノ……………艦齡十六年

（b）三千噸ヲ超エナル水上艦船

一九二一年一月一日ヨリ前ニ起工ノモノ……………艦齡十三年

（c）潛水艦……………艦齡二十年

代換セラルヘキ艦船ノ艦齡超過トナル年ノ三年ノ期間前ニハ代換ノ起工ヲ爲サス但シ三千噸ヲ超エ

サルモノニ付テハ右期間ハ二年ニ短縮ス

代換ノ權利ハ代換起工ノ遲延ニヨリ失フ事ナシ

第二款  
超過噸數處分法

第三款  
不慮亡失ノ代換

超過噸數ハ其ノ代換噸數ノ竣工又ハ取得ノ時ニ於テ第二附屬書ニ從ヒ處分スヘシ

亡失又ハ不慮ノ事變ニ依ル破壊ノ場合ハ即時代換スルコトヲ得

第二附屬書  
艦船ノ處分規則

本條約ハ左ノ方法ニ依リ艦船ヲ處分スルコトヲ規定ス

(一) 廢棄スルコト（沈没セシメ又ハ解體スルコト）

（二）「ハルク」ニ變更スルコト

標的用ニ變更スルコト

實驗用ノ爲保有スルコト

第一款乃至第五款

(五) 練習用ノ爲保有スルコト

主力艦以外ノ處分セラルヘキ何レノ艦船モ當該締約國ノ選擇ニ依リ廢棄セラルルカ又ハ「ハルク」ニ變更セラルルコトヲ得

主力艦以外ノ艦船ニシテ標的用、實驗用又ハ練習用ノ爲保有セラレタルモノハ終局ニ於テハ廢棄セラルルカ又ハ「ハルク」ニ變更セラルヘシ

右處分方法ノ細則

第三附屬書  
特殊艦船

各國ノ保有シ得ヘキ特殊艦船ノ名及型式ノ表示

第三編 補助艦三關スル日英米三國協定

第十四條  
補助艦（及特殊艦  
船）ノ制限

日英米ノ補助艦ハ本條約ノ有效期間中第三編ノ定ムル制限ヲ受ク（又特殊艦船ハ第十二條ノ定ムル制限ヲ受ク）

第十五條  
巡洋艦驅逐艦ノ定義

巡洋艦……………主力艦航空母艦以外ノ水上艦船ニシテ千八百五十噸ヲ超エ又ハ備砲口徑五・一  
時（一三〇耗）ヲ超ユルモノ  
(甲)級巡洋艦……………備砲口徑六・一時（一五五耗）ヲ超ユルモノ  
(乙)級巡洋艦……………備砲口徑六・一時（一五五耗）ヲ超エナルモノ  
驅逐艦……………水上艦船ニシテ千八百五十噸ヲ超エ且備砲口徑五・一時（一三〇耗）ヲ超エ  
サルモノ

第十六條 日英米輔助艦協定

保有量

艦種	日	米	英
(甲)級巡洋艦	一〇八、四〇〇噸	一八〇、〇〇〇噸	一四六、八〇〇噸
(乙)級巡洋艦	一〇〇、四五〇噸	一四三、五〇〇噸	一九二、二〇〇噸
驅逐艦	一〇五、五〇〇噸	一五〇、〇〇〇噸	一五〇、〇〇〇噸

(一) 補助艦各艦種ノ既成艦噸數ハ一九三六年十二月三十日ニ於テ左記協定量ヲ超過セサルコト  
協定保有量ヲ超過スル艦船ハ一九三六年未迄ニ漸次處分スルコト

保有シ得ヘキ(甲)級巡洋艦ノ最大限隻數 日本十二、英國十五、米國十八

(四) (三) (二)  
千五百噸ヲ超ユル驅逐艦ハ驅逐艦保有制限量ノ一割六分ヲ超エサルコト但シ一九三〇年四月一日現在ニ於テ既成又ハ建造中ノ此種大型驅逐艦ハ右割合ヲ超ユルモノト雖モ之ヲ保有シ得ルモ此場合此種大型驅逐艦ノ量カ右規定ノ比率ニ迄引下ケラルニ至ル迄ハ此種大型驅逐艦ヲ新ニ建造スルヲ得ス  
(五) 巡洋艦保有量ノ二割五分ヲ限リ巡洋艦ニ飛行機着艦裝置ヲ装備スルコトヲ得  
(六) 第七條二(二千噸以上ノ潛水艦三隻ヲ保有シ得ルコト)及三(備砲口徑五・一吋ヲ超ユル現有潛水艦ヲ保有シ得ルコト)ニ掲タル潛水艦ハ同艦種協定保有量中ニ算入ス  
(七) 第十三條(現存固定練習用施設及「ハルク」ヲ保有シ得ルコト)ニ依リ保有セラル艦船及第二編第二附屬書ニ依リ處分セラルヘキ艦船ノ噸數ハ制限噸數中ニ包含セス

第十七條

(乙)級巡洋艦ト驅逐艦トノ融通

融通ヲ受クヘキ艦種ノ協定保有量ノ一割以内ヲ兩者ノ間ニ融通スルコトヲ得

第十八條

米ノ(甲)級巡洋艦建

造豫定及選擇權行

使

十八隻中ノ第十六隻以下ノ建造期日ニハ左ノ制限アリ

第十六隻……一九三三年以後

第十七隻……一九三四年以後

竣工

第十六隻……一九三六年以後  
第十七隻……一九三七年以後  
第十八隻……一九三八年以後

選擇權行使ノ場合ハ(甲)級一萬噸ヲ(乙)級一萬五千六十六噸トシテ換算ス

第十九條  
代換起工量及代換  
期ノ線上

新艦ノ起工ハ協定保有量ニ達セサル不足噸數ヲ補フ為又ハ一九三六年十二月三十日ヨリ前ニ艦齡超過トナル艦船ノ代換ニ必要ナル量ヲ超過スヘカラス

例外  
第二十條ニ規定スル代換起工ノ線上

一九三七年、一九三八年及一九三九年ニ艦齡超過トナル巡洋艦及潛水艦並一九三七年及一九三八年ニ艦齡超過トナル驅逐艦ノ代換起工

第二十條  
代換ニ關スル特別  
規定

(a) 英ハ一九三六年中ニ「ブロビシア」及「エフィンガム」ヲ處分スルコトヲ得又一九三〇年四月一日建造中ノ巡洋艦ヲ除キ一九三六年十一月三十日ヨリ前ニ巡洋艦ノ新造代換量九萬千噸ヲ超ユルヲ得ス

<p><b>第二十四條</b> 條約ノ實施</p> <p>(イ) 日英米ノ關スル限リ右三國ノ批准書寄託ト同時ニ本條約ハ實施セラル</p>	<p><b>第二十三條</b> 條約ノ有效期間</p> <p>本條約ハ一九三六年十二月三十一日迄引續キ効力ヲ有ス 例外</p> <p>(一) 第四編（潛水艦ノ使用制限）ハ無期限ニ引續キ効力ヲ有ス (二) 第三條、第四條及第五條（以上航空母艦ニ關スル規定）ノ外第十一條及第二編第二附屬書ニ於ケル航空母艦ニ關スル規定ハ「ワシントン」條約ト同一期間引續キ効力ヲ有ス 締約國ハ其全部カ締約國トナルヘキ海軍軍備制限ニ關スル更ニ一般的ナル協定ニ依リ本取極ト異ル取極ヲ爲サナル限り本條約ニ代り且其ノ目的ヲ遂行スル新條約ヲ作成スル爲一九三五年ニ會議ヲ開催スヘシ但シ本條約ノ規定ハ右會議ニ於ケル何レノ締約國ノ態度ヲモ妨クルコトナカルヘキモノトス</p>	<p><b>第五編</b> 條約ノ期限、批准及效力發生ニ關スル規定</p>	<p><b>第二十二條</b> 潛水艦使用制限ニ關スル規定</p> <p>左記ハ國際法ノ確立セル規則トシテ受諾セラル (一) 潜水艦ハ其ノ商船ニ對スル行動ニ關シテハ水上艦船ノ遵守スヘキ國際法ノ規則ニ從フ (二) 特ニ商船カ正當ニ停船ヲ要求セラレタルトキ之ヲ頑強ニ拒否スル場合又ハ臨檢若ハ搜索ニ積極的ニ抗拒スル場合ノ外水上艦船タルト潛水艦タルトヲ問ハス先ツ乗客、船員及船舶書類ヲ安</p>	<p><b>第四編</b> 潜水艦使用制限ニ關スル規定</p>	<p><b>第二十一條</b> 日英米三國ノ何レカカ他國ノ新艦建造ニ依リ其ノ安全上重大ナル影響ヲ受クル場合ニ於ケル保障</p> <p>(イ) 理由ヲ特ニ明示シテ自國ノ安全上增加ヲ必要トスル艦種及其ノ量ヲ他ノ締約國ニ通告シ右增加ヲ爲スノ權利ヲ有ス (ロ) 他ノ締約國ハ同一艦種ニ於テ當該艦種ノ協定保有量ノ比例ニヨリ兵力ヲ増加スル權利ヲ有シ且右ニ依リ生シタル事態ニ關シ外交的手段ニ依リ相互ニ速ニ協議スヘシ (d) 日ハ一九三六年十二月三十一日迄ニ潛水艦一萬九千二百噸以内ヲ起工シ内一萬二千噸以内ヲ完成スルコトヲ得</p>
--	---	---------------------------------------	---	---------------------------------	--

<p>(ロ) 第一編、第二編、第四編及第五編ハ佛、伊ノ批准書寄託カ右實施ノ日ニ於テ既ニ完了シ居ルト キハ佛、伊ニ對シテモ右ノ日ニ於テ實施セラルヘク然ラナル場合ニ於テハ其ノ批准書寄託ニ依リ 夫々當該國ニ對シ實施セラル</p> <p>(ハ) 本條約第三編ニ基キ生スル權利及義務ノ適用ハ本條第二項（本摘要ノイ項）ニ掲ケタル締約國 (日英米)ニ限ラル</p> <p>締約國ハ本條第二項ニ掲ケタル締約國（日英米）ノ負ヒタル義務（第三編ニ基ク）カ佛伊ニ關シ テ日英米ヲ拘束スヘキ期日及條件ニ付キ協定ヲ遂クルモノトス</p> <p>又該協定ハ同時ニ他ノ締約國ニ關スル佛伊ノ義務ヲ定ムルモノトス</p>
<p>第二十五條 非締約國ノ第四編 (潛水艦使用制限 規定)加入方ニ關 スル規定</p> <p>第二十六條 條約ノ記録寄託保 存及謄本送付</p>

締約國全部ノ批准書寄託後英政府ハ本條約第四編（潛水艦ノ使用制限規定）ノ規定ヲ締約國以外ノ  
各國政府ニ通知シ確定のニ且無期限ニテ之ニ加入スルコトヲ勸誘ス  
右加入ハ英政府ニ宛テタル宣言書ニ依リ行ハルヘシ

本條約ハ佛語及英語ノ本文ヲ以テ正文トシ英政府ノ記録ニ寄託保存セラルヘク右本文ノ認證謄本ハ  
一切ノ締約國ノ政府ニ送付セラルヘシ

千九百三十年「ロンドン」海軍條約第十九條ノ  
解釋ニ關シ日、英、米三國間ニ交換セラレタル書翰

## 目 次

第一號	千九百三十年五月二十一日附幣原外務大臣宛在本邦米國大使來翰第四九號(原文及譯文).....	一
第二號	昭和五年五月二十四日附在本邦米國大使宛幣原外務大臣往翰條一普通第六六號.....	三
第三號	昭和五年五月二十七日附在本邦英國大使宛幣原外務大臣往翰條一普通第九四號.....	四
第四號	千九百三十年六月九日附幣原外務大臣宛在本邦英國大使來翰第一一七號(原文及譯文).....	七
第五號	千九百三十年六月六日附幣原外務大臣宛在本邦米國代理大使來翰第五九號(原文及譯文).....	一
第六號	昭和五年六月十三日附在本邦米國代理大使宛幣原外務大臣往翰條一普通第七七號.....	一三

NO. 1.

Embassy of the  
United States of America,  
Tokyo, May 21, 1930.

No. 49.

Excellency:

I have the honor, by direction of my Government, to state that it is the understanding of the Government of the United States that the word "category" in Article 19 of the London Naval Treaty of 1930 means "category" or "subcategory". The Government of the United States declares that it interprets the Treaty to mean that vessels becoming over age in either subcategory "A" or subcategory "B" of the cruiser categories (Article 16) shall be replaceable only in that subcategory.

The American Government will be most happy to have the confirmation of this understanding from the Japanese Government.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

Signed: W. R. Castle.

His Excellency

Baron Kijuro Shidehara,  
His Imperial Japanese Majesty's,  
Minister for Foreign Affairs.  
etc. etc. etc.

第一號

千九百三十年五月二十一日附幣原外務大臣宛在本邦米國大使來翰第四九號(譯文)

以書翰啓上致候陳者本使ハ合衆國政府ニ於テハ千九百三十年ノ「ロンドン」海軍條約第十九條中ノ「艦種」ナル語ハ「艦種」又ハ「艦級」ヲ意味スト了解スル旨ヲ本國政府ノ訓令ニ依リ陳述スルノ光榮ヲ有シ候合衆國政府ハ巡洋艦艦種(第十  
六條)ノ「甲」級又ハ「乙」級ノ何レカニ屬スル艦齡超過ト爲ル艦船ハ右艦級内ニ於テノミ之ヲ代換スルコトヲ得ベシトノ趣意ナリト右條約ヲ解釋スル旨宣言致候

米國政府ハ日本國政府ヨリ右了解ニ對スル確認ヲ得バ幸甚ノ至ニ有之候

右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十年五月二十一日東京ニ於テ

外務大臣男爵幣原喜重郎閣下

ダブリュー、アール、キップスル

第二號

昭和五年五月二十四日附在本邦米國大使宛幣原外務大臣往翰條一普通第六六號

以書翰啓上致候陳者本大臣ハ千九百三十年ノ「ロンドン」海軍條約第十九條中ノ「艦種」(Category)ナル語ノ解釋ニ關スル五月二十一日附ノ貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候

帝國政府ニ於テハ同條約第十九條中ノ「艦種」(Category)ナル語ハ「艦種」(Category)又ハ「艦級」(Sub-Category)ヲ意味スト了解シ從テ巡洋艦艦種(第十六條)ノ「甲」(a)級又ハ「乙」(b)級ノ何レカニ屬スル艦齡超過ト爲ル艦船ハ右艦級内ニ於テノミ之ヲ代換スルコトヲ得ベシトノ趣意ナリト右條約ヲ解釋致居候

右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和五年五月二十四日

外務大臣男爵幣原喜重郎

亞米利加合衆國特命全權大使

ヴィリアム、アール、キップスル(ジュニア)閣下

第三號

昭和五年五月二十七日附在本邦英國大使宛幣原外務大臣往翰條一普通第九四號

以書翰啓上致候陳者今般在本邦米國大使ヨリ千九百三十年ノ「ロンドン」海軍條約第十九條中ノ「艦種」(Category) ナル語ノ解釋ニ關シ別紙甲號寫ノ通申越アリタルニ對シ別紙乙號寫ノ通回答致置候ニ付右貴國政府ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候右申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和五年五月二十七日

大不列顛特命全權大使

サー、ジョン、ティラー閣下

外務大臣男爵幣原喜重郎

甲號寫

Embassy of the  
United States of America,  
Tokyo, May 21, 1930.

No. 49.

Excellency:

I have the honor, by direction of my Government, to state that it is the understanding of the Government of the United States that the word "category" in Article 19 of the London Naval Treaty of 1930 means "category" or "subcategory". The Government of the United States declares that it interprets the Treaty to mean that vessels becoming over age in either subcategory "A" or subcategory "B" of the cruiser categories (Article 16) shall be replaceable only in that subcategory.

The American Government will be most happy to have the confirmation of this understanding from the Japanese Government.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

Signed: W. R. Castle.

His Excellency

Baron Kijuro Shidehara,  
His Imperial Japanese Majesty's,  
Minister for Foreign Affairs.  
etc. etc. etc.

乙號寫

條一普通第六六號

以書翰啓上致候陳者本大臣ハ千九百三十年ノ「ロンドン」海軍條約第十九條中ノ「艦種」(Category) ナル語ハ「艦種」(Category) 又ハ「艦級」(Sub-Category) ヲ意味ル五月二十一日附ノ貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候  
帝國政府ニ於テハ同條約第十九條中ノ「艦種」(Category) ナル語ハ「艦種」(Category) 又ハ「艦級」(Sub-Category) ヲ意味  
スト了解シ從テ巡洋艦艦種(第十六條)ノ「甲」(a)級又ハ「乙」(b)級ノ何レカニ屬スル艦齡超過ト爲ル艦船ハ右艦級内ニ於テノミ之ヲ代換スルコトヲ得ベシトノ趣意ナリト右條約ヲ解釋致居候  
右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和五年五月二十四日

外務大臣男爵幣原喜重郎

亞米利加合衆國特命全權大使  
ヴィリアム・アール・キアヌル(ジーニー)閣下

NO. 4.

British Embassy,  
Tokyo.  
June 9, 1930.

No. 117.

Your Excellency,

With reference to your Note No. 94 of the 27th May, I have the honour to communicate to Your Excellency, under instructions from my Government, the text of the Notes exchanged by my Government and the United States Embassy in London on the 5th June, with regard to the interpretation of the word "category" in Article 19 of the London Naval Treaty.

2. The text of the Note addressed by the United States Embassy is as follows:—

"It is the understanding of the Government of the United States that the word "category" in Article 19 of the London Naval Treaty of 1930 means "category" or "sub-category". The Government of the United States declares that it interprets the treaty to mean that vessels becoming over age in either sub-category (A) or (B) of the cruiser categories (Article 16) shall be replaceable only in that sub-category.

"I have the honour to state that my Government would be most happy to have a Note of confirmation as to whether this interpretation is shared by His Majesty's Government".

3. His Majesty's Government despatched the following Note in reply to the above:—

"In the Note which Your Excellency was so good as to address to me on the 5th June, you stated that it was the understanding of the Government of the United States that the word "Category" in Article 19 of the London Naval Treaty of 1930 meant "category" or "sub-category". Your Excellency added that the Government of the United States declared that it interpreted the Treaty to mean that vessels becoming over age in either sub-category (A) or sub-category (B) of the cruiser categories (Article 16) shall be replaceable only in that sub-category.

His Majesty's Government in the United Kingdom note the above understanding and interpretation of the London Naval Treaty of 1930 and concur therein.

His Majesty's Government in the United Kingdom do so without prejudice to Article 20 (a) of that Treaty, under which they understand that the tonnage to be

意致候

三 皇帝陛下ノ政府ハ右ニ對スル回答トシテ左記公文ヲ發送致候

「閣下ハ六月五日本官ニ宛テラレタル書翰ニ於テ合衆國政府ニ於テハ千九百三十年ノ「ロンドン」海軍條約第十九條中ノ「艦種」ナル語ハ「艦種」又ハ「艦級」ヲ意味スト了解セル旨ヲ陳述セラレ候閣下ハ合衆國政府ガ同政府ニ於テハ巡洋艦艦種（第十六條）ノ（甲）級又ハ（乙）級ノ何レカニ屬スル艦齡超過ト爲ル艦船ハ右得ベシトノ趣意ナリト右條約ヲ解釋スル旨宣言致候

本使ハ本國政府ニ於テハ右解釋ガ皇帝陛下ノ政府ニ依リ同意セラレタリヤ否ヤニ關スル確認ノ書翰ヲ得バ幸甚ノ至トスルモノナル旨陳述スルノ光榮ヲ有シ候」

二 合衆國大使館ニ依リ送付セラレタル書翰ノ本文ハ左ノ如クニ有之候

「合衆國政府ニ於テハ千九百三十年ノ「ロンドン」海軍條約第十九條中ノ「艦種」ナル語ハ「艦種」又ハ「艦級」ヲ意味スト了解致候合衆國政府ハ巡洋艦艦種（第十六條）ノ（甲）級又ハ（乙）級ノ何レカニ屬スル艦齡超過ト爲ル艦船ハ右

艦級内ニ於テノミ代換スルコトヲ得ベシトノ趣意ナリト右條約ヲ解釋スル旨宣言致候

本使ハ本國政府ニ於テハ右解釋ガ皇帝陛下ノ政府ニ依リ同意セラレタリヤ否ヤニ關スル確認ノ書翰ヲ得バ幸甚ノ至ト

スルモノナル旨陳述スルノ光榮ヲ有シ候」

#### 第四號

千九百三十年六月九日附幣原外務大臣宛在本邦英國大使來翰第一一七號（譯文）

以書翰啓上致候陳者五月二十七日附貴翰第九十四號ニ關シ本使ハ「ロンドン」海軍條約第十九條中ノ「艦種」ナル語ノ解釋ニ關シ六月五日本國政府ト在「ロンドン」合衆國大使館トノ間ニ交換セラレタル書翰ノ本文ヲ本國政府ノ訓令ニ依リ閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候

scrapped and replaced in the case of the British Commonwealth of Nations by ninety-one thousand tons of six inch cruiser tonnage which may be completed before December 31st, 1936, comprises, partly six inch gun cruiser tonnage, and, partly, cruiser tonnage of seven point five inch gun "Effingham" Class."

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

Signed: John Tilley.

His Excellency

Baron Kijuro Shidehara,

H.I.J.M. Minister for Foreign Affairs.

NO. 5.

Embassy of the  
United States of America,  
Tokyo, June 6, 1930.

No. 59.

Excellency:

I have the honor to inform Your Excellency that my Government has received from the British Government a reply to a note identical to that presented to Your Excellency by Mr. Castle on May 21, 1930, which reads as follows:

“Your Excellency:

In the Note No. 611 which Your Excellency was so good as to address to me on June 5th you stated that it was the understanding of the Government of the United States that the word “category” in Article 19 of the London Naval Treaty, 1930, meant category or sub-category. Your Excellency added that the Government of the United States declare that it interpreted the treaty to mean that vessels becoming over age of either sub-category (a) or sub-category (b) of the cruiser categories (Article 16) shall be replaceable only in that sub-category.

His Majesty's Government in the United Kingdom note the above understanding and interpretation of the London Naval Treaty of 1930 and concur therein. His Majesty's Government in the United Kingdom do so without prejudice to Article 20 (a) of that Treaty under which they understand that the tonnage to be scrapped and replaced in the case of the British Commonwealth of Nations by the 91,000 tons of six-inch cruiser tonnage which may be completed before 31st December, 1936, comprises partly six-inch gun cruiser tonnage and partly cruiser tonnage of the 7.5-inch gun ‘Effingham’ class.”

The Secretary of State informs me, further, that it is his intention to transmit the text of his notes to the Japanese and British Governments and the replies thereto, to the Foreign Relations Committee of the United States Senate on June 6, 1930.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

Signed: Edwin L. Neville.

His Excellency

Baron Kijuro Shidehara,  
His Imperial Japanese Majesty's,  
Minister for Foreign Affairs.  
etc. etc. etc.

外務大臣男爵幣原喜重郎閣下

聯合王國ニ於ケル皇帝陛下ノ政府ハ全英聯盟ニ付廢棄セラルベキトン數ニシテ千九百三十六年十二月三十日前提ニ竣  
工セラルルコトヲ得ル六インチ砲巡洋艦トノ數九萬千トンニ依リ代換セラルベキモノハ一部六インチ砲巡洋艦ノトン  
數及一部分七・五インチ砲「エッジンガム」級巡洋艦ノトン數ヲ包含スト同政府ニ於テ了解スルノ根據タル右條約第一  
十條(イ)ヲ妨グルコトナクシテ前記了解及解釋ニ同意スルモノニ有之候」  
右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具  
千九百三十年六月九日東京ニ於テ

ジョン・ネイバーリー

## 第五號

千九百三十年六月六日附幣原外務大臣宛在本邦米國代理大使來翰第五九號（譯文）

以書翰啓上致候陳者本官ハ本國政府ガ千九百三十年五月二十一日附ヲ以テ「キアスル」氏ニ依リ閣下ニ提出セラレタルモノト同文ノ書翰ニ對スル左記回答ヲ英國政府ヨリ受領シタル旨ヲ閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

「以書翰啓上致候陳者閣下ハ六月五日本官ニ宛テラレタル書翰第六百十一號ニ於テ合衆國政府ニ於テハ千九百三十年「ロンドン」海軍條約第十九條中ノ「艦種」ナル語ハ艦種又ハ艦級ヲ意味スト了解セル旨ヲ陳述セラレ候閣下ハ合衆國政府ガ同政府ニ於テハ巡洋艦（第十六條）ノ(甲)級又ハ(乙)級ノ何レカニ屬スル艦齡超過ト爲ル艦船ハ右艦級内ニ於テノミ之ヲ代換シ得ベシトノ趣意ナリト右條約ヲ解釋スル旨宣言スル趣附言セラレ候

聯合王國ニ於ケル皇帝陛下ノ政府ハ千九百三十年ノ「ロンドン」海軍條約ニ關スル前記了解及解釋ヲ了承シ且之ニ同意致候聯合王國ニ於ケル皇帝陛下ノ政府ハ全英聯盟ニ付廢棄セラルベキトン數ニシテ千九百三十六年十二月三十一日前ニ竣工セラルコトヲ得ル六インチ巡洋艦トン數九萬千トンニ依リ代換セラルベキモノハ一部分六インチ砲巡洋艦ノトン數及一部份七・五インチ砲「エフインガム」級巡洋艦ノトン數ヲ包含スト同政府ニ於テ了解スルノ根據タル右條約第二十條イヲ妨グルコトナクシテ前記了解及解釋ニ同意スルモノニ有之候

尙國務長官ハ其ノ日本國政府及英國政府宛書翰竝ニ之ニ對スル回答ノ本文ヲ千九百三十年六月六日合衆國上院外交委員會ニ送付スルノ意嚮ヲ有スル旨ヲ本官ニ通報致候

右申進旁本官ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十年六月六日東京ニ於テ

外務大臣男爵幣原喜重郎閣下

エドウイン、エル、ネヴィル

## 第六號

昭和五年六月十二日附在本邦米國代理大使宛幣原外務大臣往翰條一普通第七七號

以書翰啓上致候陳者「ロンドン」海軍條約第十九條中ノ「艦種」ナル語ノ解釋問題ニ關スル貴國政府英國政府間ノ照覆ニ關シ六月六日附貴翰第五十九號ヲ以テ御通報相成敬承致候

右御通報ニ對シ謝意表彰旁大臣ハ茲ニ重テ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和五年六月十三日

外務大臣男爵幣原喜重郎

亞米利加合衆國代理大使

エドウイン、エル、ネヴィル 貴下

一九三〇年「ロンドン」海軍條約ニ依ル日、米、英兵力  
増減量及一九三六年未迄ノ代換建造量(權利)並廢棄量

一九三〇年「ロンドン」海軍條約ニ依ル日、米、英兵力増減量及  
一九三六年未迄ノ代換建造量(権利)並廢棄量

日本

備 考	合 計	潛 水 艦	驅 逐 艦	(乙) 級巡洋艦	(甲) 級巡洋艦	現有量	協定保有量	兵力增減量	一九三六年未迄ノ代 換建造量(権利)		
									ニ着着手シ得ル未迄 造量	ニ完成シ得ル未迄 造量	一九三六年未迄 ノ廢棄量
	四一七、一五二	三六七、〇五〇(減)	七七、八四二	五二、七〇〇(減)	一三三、四九五	一〇八、四〇〇	一〇八、四〇〇	一、〇三五	二、〇三五	五〇、九五五	三六、一四五
										三五、六五五	三三、六二〇
										二五、七八五	五二、七四〇
										一一、〇〇〇	三七、一四二
											一一三、五〇二
											七三、四〇〇
											一〇六、三〇〇
											五〇、一〇二
											三六七、〇五〇
											四一七、一五二
右表ノ外阿蘇、常磐ノ代換トシテ一九三六年未迄ニ合計一〇、〇〇〇噸(五〇〇〇噸型二隻)ヲ建造 代換スルコトヲ得											

艦種	現有量	協定保有量	兵力增減量	ニ着手シ得ル代	一九三六年未迄
(甲)級巡洋艦	一三〇,〇〇〇	一八〇,〇〇〇(増)	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	一九三六年未迄
(乙)級巡洋艦	七〇,五〇〇	一四三,五〇〇(増)	七三,〇〇〇	七三,〇〇〇	一九三六年未迄
驅逐艦	二九〇,三〇四	一五〇,〇〇〇(減)	四〇,三〇四	一五〇,〇〇〇	一九三六年未迄
潛水艦	八二,五八二	五二,七〇〇(減)	二九,八八二	四四,五〇〇	三〇,〇〇〇
合計	五七三,三八六	五四一,七〇〇(減)	三一,六八六	二九七,九〇〇	二一八,五〇〇

艦種	現有量	協定保有量	兵力增減量	ニ着手シ得ル代	一九三六年未迄
(甲)級巡洋艦	一四六,八〇〇	一四六,八〇〇	一九二,二〇〇(減)	一九三,六〇〇	一九三六年未迄
(乙)級巡洋艦	二一七,一一一	一九二,二〇〇(減)	二四,九一一	一五七,四四〇	一九三六年未迄
合計	一八四,三七一	一五〇,〇〇〇(減)	三四,三七一	九一,〇〇〇	一九三六年未迄

備考	「ホーキンス」級四隻ハ(乙)級巡洋艦トシテ計上ス
合計	六〇八,五六六
潛水艦	六〇,二八四
驅逐艦	一八四,三七一
合計	一五〇,〇〇〇(減)

英 國 巡 洋 艦 (其三)

乙級洋巡艦(3)

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年未於 タル船齡	基準排水量		代換年月	備考
					單艦	合計		
42	EMERALD	1918—9	1926—1		7,550	209,531		
43	ENTERPRISE	„ — 6	„ — 3		7,580	217,111		

甲級巡洋艦

44	CUMBERLAND	1924—10	1928—1		10,000			
45	BERWICK	„ — 11	„ — 3		„			
46	SUFFOLK	„ — 9	„ — 5		„			
47	CORNWALL	„ — 10	„		„			
48	AUSTRALIA	1925	„		„			
49	KENT	1924—11	„ — 6		(Full 13,600T)			
50	CANBERRA	1925	„ — 7		„			
51	LONDON	1926—2	1929—1		„			
52	SUSSEX	1925	„ — 6		„			
53	DEVONSHIRE	1926—3	„		„			
54	SHROPSHIRE	1925	„ — 9		„			
55	YORK	1927—5	1930—3		8,400			
56	NORFOLK	„ — 9	„ — 4		10,000			
57	DORSETSHIRE	„ — 7	„ — 7		„			
58	EXETER	1928—8			8,400	146,800		
59	SURREY	1929—3			10,000			
60	NORTHUMBER- LAND	„			„			

建造中  
三〇年四月  
ナル巡洋艦  
於ニ  
建  
造  
中  
止

英 國 巡 洋 艦 (其一)

乙級巡洋艦(1)

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年 年末ニ於 ケル艦齡		基準排水量 単艦	合計	代換年月	備考
				單艦	合計				
1	DARTMOUTH	1910—2	1911—10			4,860	4,860		
2	BIRMINGHAM	1912—6	1914—1			5,120	9,980		
3	LOWESTOFT	" — 7	" — 4			"	15,100		
4	COMUS	1913—11	1915—5			3,895	18,995		
5	CARYSFORT	1914—2	" — 6			"	22,890		
6	CALLIOPE	" — 1	"			3,920	26,810		
7	CLEOPATRA	" — 2	"			3,895	30,705		
8	CASTOR	" — 10	" — 11			3,920	34,625		
9	CHAMPION	" — 3	" — 12			"	38,545		
10	CONSTANCE	1915—1	1916—1			"	42,465		
11	CANTERBURY	1914—10	" — 5			"	46,385		
12	CAMBRIAN	" — 12	" — 8			"	50,305		
13	CENTAUR	1915—1	"			4,120	54,425		
14	BRISBANE	1913—1	" — 11			5,120	59,545		
15	CONCORD	1915—2	" — 12			4,120	63,665		
16	CALEDON	1916—3	1917—3			4,180	67,845		
17	CARADOC	" — 2	" — 6			"	72,025		
18	CARYPSO	"	"			"	76,205		
19	CERES	" — 4	"			4,290	80,495		
20	CARDIFF	" — 7	" — 7			"	84,785		

艦齡十六年トシテ一九三六年未迄ニ超過トナルモノニシテ此ノ中九萬一千噸ノミヲ一九三六年未迄ニ竣工シ得

英 國 巡 洋 艦 (其二)

乙級洋巡艦(2)

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年 年末ニ於 ケル艦齡		基準排水量 単艦	合計	代換年月	備考
				單艦	合計				
21	CURLEW	1916—8	1917—12			4,290	89,075		
22	CURACOA	" — 7	1918—2			"	93,365		
23	COVENTRY	" — 8	"			"	97,655		
24	DANAЕ	" — 12	" — 7			4,850	102,505		
25	DRAGON	1917—1	" — 8			"	107,355		
26	VINDICTIVE	1916—6	" — 10			9,996	117,351		
27	CARLISLE	1917—10	" — 11			4,200	121,551		
28	DAUNTLESS	" — 1	" — 12			4,850	126,401		
29	DELHI	" — 10	1919—6			"	131,251		
30	COLOMBO	" — 12	"			4,200	135,451		
31	HAWKINS	1916—6	" — 7			9,800	145,251		
32	CALCUTTA	1917—10	" — 8			4,200	149,451		
33	CAIRO	" — 11	" — 9			"	153,651		
34	DUNEDIN	1917—11	1919—10			4,850	158,501		
35	DURBAN	1918—1	1921—11			"	163,351		
36	CAPETOWN	" — 2	1922—2			4,200	167,551		
37	DIOMEDE	" — 3	" — 6			4,850	172,401		
38	DESPATCH	" — 7	"			"	177,251		
39	ADELAIDE	1915—1	" — 8			5,100	182,351		
40	FROBISHER	1916—8	1924—9			9,860	192,211		
41	EFFINGHAM	1917—4	1925—7			9,770	201,981		一年分ト九中スナ三ニル得六處コ

一トナル如ク兵力ヲ合計噸數一九二、二〇〇噸

潛水艦 (其三)

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年未於 タル艦		基準排水量 単艦	合計	代換年月	備考
				11—8	988				
41	□-64	1923-10	1925-4	11—8	988	32,968			
42	イ-52	1922-2	„-5	11—7	1,390	34,358			
43	□-68	1924-2	„-10	11—2	988	35,346			
44	イ-1	1923-3	1926-3	10—9	1,955	37,301			
45	□-65	1924-11	„-6	10—6	988	38,289			
46	イ-2	1923-8	„-7	10—5	1,955	40,244			
47	„-3	„-11	„-11	10—1	„	42,199			
48	□-67	1925-3	„-12	10—0	988	43,187			
49	イ-21	1924-10	1927-3	9—9	1,142	44,329			
50	„-53	„-4	„	„	1,635	45,964			
51	□-31	1921-9	„-7	9—5	655	46,619			
52	„-66	1925-12	„	„	988	47,607			
53	イ-55	1924-4	„-9	9—3	1,635	49,242			
54	„-22	1925-2	„-10	9—2	1,142	50,384			
55	„-54	1924-11	„-12	9—0	1,35	52,019			
56	„-23	1925-6	1928-4	8—8	1,142	53,161			
57	„-58	1924-12	„-5	8—7	1,635	54,796			
58	„-24	1926-4	„-12	8—0	1,142	55,938			
59	„-63	„-8	„	„	1,635	57,573			
60	„-56	„-11	1929-3	7—9	„	59,208			

此一ノ中ニ六〇年未迄ニ及ぶ所、竣工スルヲ得工シ其ノ中一二〇〇〇噸ヲ

潛水艦 (其四)

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年未於 タル艦		基準排水量 単艦	合計	代換年月	備考
				7—8	1,635				
61	イ-61	1926-11	1929-4	7—8	1,635	60,843			
62	„-4	„-4	„-12	7—0	1,955	62,798			
63	„-60	1927-10	„	„	1,635	64,433			
64	„-57	„-7	„	„	„	66,068			
65	„-62	„-4	1930-2	6—10	„	67,703			
66	„-59	„-3	„-3	6—9	„	69,338			
67	„-64	1928-3	„-8	6—4	„	70,973			
68	„-5	„	1931-12	5—0	1,955	72,928			
69	„-66	„	1932-1	4—11	1,638	74,566			
70	„-65	„	„	„	„	76,204			
71	„-67	„-3	4—9	„	77,842				

潛水艦 (其一)

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年 年末ニ於 ケル艦 隻	基準排水量		代換年月	備考
					單艦	合計		
1	□—11	1917—4	1919—7	17—5	717	717		
2	“—12	”	“—9	17—3	”	1,434		
3	“—1	1917—1	1920—3	16—9	686	2,120		
4	“—2	1918—7	“—4	16—8	”	2,806		
5	“—51	“—8	“—6	16—6	893	3,699		
6	“—13	“—9	“—9	16—3	736	4,435		
7	“—24	1919—4	“—11	16—1	735	5,170		
8	“—52	1918—8	”	16—1	893	6,063		
9	“—14	“—9	1921—2	15—10	736	6,799		
10	“—53	1919—4	“—3	15—9	893	7,692		
11	“—15	1920—6	“—6	15—6	736	8,428		
12	“—54	1919—11	“—9	15—3	893	9,321		
13	“—17	1920—9	“—10	15—2	735	10,956		
14	“—25	“—2	”	15—2	”	10,791		
15	“—55	“—3	1921—11	15—1	893	11,684		
16	“—18	“—10	“—12	15—0	735	12,419		
17	“—56	“—7	1922—1	14—11	893	13,312		
18	“—20	1919—7	“—2	14—10	735	14,047		
19	“—21	”	”	14—10	”	14,782		
20	“—19	1920—9	1922—3	14—9	”	15,517		

協定割當保有量ヨリ  
超過廢棄ノ分

潛水艦 (其二)

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年 年末ニ於 ケル艦 隻	基準排水量		代換年月	備考
					單艦	合計		
21	□—5	1920—3	1922—3	14—9	682	16,199		
22	“—16	“—11	1922—4	14—8	735	16,934		
23	“—4	1919—12	“—5	14—7	682	19,616		
24	“—3	“—10	“—7	14—5	”	18,298		
25	“—57	1920—11	”	14—5	889	19,187		
26	“—22	1921—1	1922—10	14—2	735	19,922		
27	“—58	“—2	“—11	14—1	889	20,811		
28	“—26	“—3	1923—1	13—11	746	21,557		
29	“—59	“—5	“—3	13—9	889	22,446		
30	“—23	“—1	“—4	13—8	735	23,161		
31	“—29	“—6	“—9	13—3	655	23,836		
32	“—60	“—12	”	13—3	988	24,824		
33	“—28	“—11	“—11	13—1	746	25,570		
34	“—61	1922—6	1924—2	12—10	988	26,558		
35	“—30	1921—6	1924—4	12—8	655	27,213		
36	“—32	1921—10	1924—5	12—7	655	27,868		
37	□—51	“—4	“—6	12—6	1,390	29,258		
38	□—27	“—7	“—7	12—5	746	30,004		
39	“—62	1922—9	”	12—5	988	30,992		
40	“—63	1923—4	“—12	12—0	”	31,980		

驅逐艦 (其五)

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年 年末於 ケル艦齡		準基排水量 單艦	合計	代換年月	備考
				年	月				
81	夕風	1923—9	1925—4	11—8		1,270	73,375		
82	追風	” — 3	” — 10	” — 2		”	74,645		
83	皐月	1924—12	” — 11	” — 1		1,315	75,960		
84	如月	” — 6	” — 12	” — 0		”	77,275		
85	疾風	1922—11	”	”		1,270	78,545		
86	睦月	1924—5	1926—3	10—9		1,315	79,860		
87	文月	” — 10	” — 7	” — 5		”	81,175		
88	彌生	” — 1	” — 8	” — 4		”	82,490		
89	卯月	”	” — 9	” — 3		”	83,805		
90	菊月	1925—6	” — 11	” — 1		”	85,120		
91	水無月	” — 3	1927—3	9—9		”	86,435		
92	長月	” — 4	” — 4	” — 8		”	87,750		
93	三日月	” — 8	” — 5	” — 7		”	89,065		
94	夕月	1926—11	” — 7	” — 5		”	90,380		
95	望月	” — 3	” — 10	” — 2		”	91,695		
96	磯波	” — 10	1928—6	8—6		1,700	93,395		
97	東雲	” — 8	” — 7	” — 5		”	95,095		
98	薄雲	” — 10	”	”		”	96,795		
99	白雲	”	”	”		”	98,495		
100	吹雪	” — 6	” — 8	” — 4		”	100,195		

殘存

驅逐艦 (其六)

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年 年末於 ケル艦齡		基準排水量 單艦	合計	代換年月	備考
				年	月				
101	白雪	1927—3	1928—12	8—0		1,700	101,895		
102	初雪	” — 4	1929—3	7—9		”	103,595		
103	叢雲	1927—4	” — 5	7—7		”	105,295		
104	深雪	”	” — 6	” — 6		”	106,995		
105	浦波	”	”	”		”	108,695		
106	敷波	1928—7	” — 12	7—0		”	110,395		
107	綾波	” — 1	1930—4	6—8		”	112,095		
108	朝霧	” — 12	” — 5	” — 7		”	113,795		
109	夕霧	1929—4	” — 12	” — 0		”	115,495		
110	天霧	1928—11	”	”		”	117,195		
111	狹霧	1929—3	”	”		”	118,895		
112	艤	” — 11	1931—3	5—9		”	120,595		
113	曙	” — 10	”	”		”	122,295		
114	潮	” — 12	” — 7	5—5		”	123,995		
115	漣	1930—2	” — 9	5—3		”	125,695		
116	曉	”	1932—3	4—9		”	127,395		
117	譽	”	”	”		”	129,095		
118	雷	” — 3	”	”		”	130,795		
119	電	”	”	”		”	132,495		

驅逐艦 (其三)

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年 末ニ於 ケル 艦齡	基準排水量 単艦	合計	代換年月	備考
41	梅	1919—3	1920—7	16—5	770	33,335		艦齡迄 ヲニ 十當 六艦齡 超過 トスル モトナ ルモ ノ年
42	柿	” — 2	” — 8	” — 4	”	34,105		
43	沖風	”	”	”	1,215	35,320		
44	羽風	1918—11	” — 9	” — 3	”	36,535		
45	島風	1919—9	” — 11	” — 1	”	37,750		
46	菊	1920—1	” — 12	” — 0	770	38,520		
47	菱	” — 4	”	”	”	39,290		
48	萩	” — 2	1921—4	15—8	”	40,060		一九三六年 末迄ニ 代換ヲ 完成スル コトヲ 得
49	秋風	” — 6	”	”	1,215	41,275		
50	薄	” — 5	” — 5	” — 7	770	42,045		
51	藤	1919—12	”	”	”	42,815		
52	薦	1920—10	” — 6	” — 6	”	43,585		
53	汐風	” — 5	” — 7	” — 5	1,215	44,800		
54	夕風	” — 12	” — 8	” — 4	”	46,015		
55	灘風	” — 1	” — 9	” — 3	”	47,230		
56	葦	” — 11	” — 10	” — 2	770	48,000		
57	太刀風	” — 8	” — 12	” — 0	1,215	49,215		
58	帆風	” — 11	”	”	”	50,430		
59	菱	”	1922—3	14—9	770	51,200		
60	蓼	” — 12	” — 7	” — 5	”	51,970		

驅逐艦 (其四)

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年 末ニ於 ケル 艦齡	基準排水量 単艦	合計	代換年月	備考
61	董	1920—11	1923—3	13—9	770	52,740		コ六 ノ年 中末ニ テ於 一テ ○代 四換 ○建 ○造 中 曠丈ハ 一九 三
62	野風	1921—4	1922—3	14—9	1,215	53,955		
63	沼風	” — 8	” — 7	” — 5	”	55,170		
64	蓮	” — 3	”	”	770	55,940		
65	蓬	” — 2	” — 8	” — 4	”	56,710		
66	若竹	” — 12	” — 9	” — 3	820	57,530		
67	波風	” — 11	” — 11	” — 1	1,215	58,745		
68	神風	” — 12	” — 12	” — 0	1,270	60,015		
69	吳竹	1922—3	1922—12	14—0	820	60,835		
70	芙蓉	” — 2	1923—3	13—9	”	61,655		
71	朝顏	” — 3	” — 5	” — 7	”	62,475		
72	春風	” — 5	”	”	1,270	63,745		
73	朝風	” — 2	” — 6	” — 6	”	65,015		
74	刈萱	” — 5	” — 8	” — 4	820	65,835		
75	早苗	” — 11	” — 11	” — 1	”	66,655		
76	松風	” — 12	1924—4	12—8	1,270	67,925		
77	夕顏	” — 5	” — 5	” — 7	820	68,745		
78	早蕨	” — 11	” — 7	” — 5	”	69,565		
79	旗風	1923—7	” — 8	” — 4	1,270	70,835		
80	朝風	” — 3	” — 12	” — 0	”	72,105		

驅逐艦 (其一)

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年三月於 ケル艦船	基準排水量		代換年月	備考
					單艦	合計		
1	海風	1909—11	1911—9	25—3	1,030	1,030		
2	山風	1910—6	” —12	” —0	”	2,060		
3	櫻	1911—3	1912—5	24—7	530	2,590		
4	橘	” —4	” —6	” —6	”	3,120		
5	桜	1914—12	1915—3	21—9	595	3,715		
6	楓	” —11	”	”	”	4,310		
7	楓	” —10	”	”	”	4,905		
8	桂	” —12	”	”	”	5,500		
9	梅	” —11	”	”	”	6,095		
10	楠	”	”	”	”	6,690		
11	柏	”	” —4	” —8	”	7,285		
12	松	”	”	”	”	7,880		
13	杉	”	”	”	”	8,475		
14	桐	”	”	”	”	9,070		
15	浦風	1913—10	1915—9	” —3	810	9,880		
16	桃	1916—2	1916—12	20—0	755	10,635		
17	磯風		1917—2	19—10	1,105	11,740		
18	濱風		” —3	” —9	”	12,845		
19	檉	1916—3	”	”	755	13,600		
20	檜	” —5	”	”	”	14,355		

協定割當保有量より超過廢棄ノ分

驅逐艦 (其二)

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年三月於 ケル艦船	基準排水量		代換年月	備考
					單艦	合計		
21	天津風		1917—4	19—8	1,105	15,460		
22	時津風		” —5	” —7	”	16,565		
23	柳	1916—10	”	”	755	17,320		
24	桑	1917—11	1918—3	18—9	770	18,090		
25	楓	” —10	” —4	” —8	”	18,860		
26	樺	”	”	”	”	19,630		
27	榎	”	”	”	”	20,400		
28	檜	” —11	”	”	”	21,170		
29	椿	”	”	”	”	21,940		
30	江風	” —2	” —11	” —1	1,180	23,120		
31	谷風	1916—9	1919—1	17—11	”	24,300		
32	樅	1918—12	” —12	” —0	770	25,070		
33	梨	”	”	”	”	25,840		
34	竹	”	”	”	”	26,610		
35	澤風	1918—1	1920—3	16—9	1,215	27,825		
36	榧	” —12	”	”	770	28,595		
37	榆	1919—9	”	”	”	29,365		
38	栗	” —12	” —4	” —8	”	30,135		
39	峯風	1918—4	” —5	” —7	1,215	31,350		
40	矢風	” —8	” —7	” —5	”	32,565		

輕巡洋艦

番號	艦名	起工年月	竣工年月	一九三六年於 六ヶ 年 齡	基準排水量 單艦	合計	代換年月	備考
1	利根	1905-11	1910-5	26-7	3,760	3,760		艦齡三十 年アル ニ未モ 十年三 ト然 齡モ 一九過
2	筑摩	1910-5	1912-5	24-7	4,400	8,160		
3	平戶	"-8	"-6	24-6	"	12,560		
4	矢矧	"-6	"-7	24-5	"	16,960		
5	龍田	1917-7	1919-3	17-7	3,230	20,190		一チ 九成 六ス 年 來 迄 ニ 代 換
6	天龍	"-5	"-11	17-1	"	23,420		
7	球磨	1918-8	1920-8	16-4	5,100	28,520		
8	多摩	"	1921-1	15-11	"	33,620		
9	北上	1919-9	"-4	15-8	"	38,720		一於 九 三 代 換 六 建 年 末 造 甲
10	木曾	"-6	"-5	15-7	"	43,820		
11	大井	"-11	"-10	15-2	"	48,920		
12	長良	1920-9	1922-4	14-8	5,170	54,090		
13	名取	"-12	"-9	14-3	"	59,260		殘存
14	鬼怒	1921-1	"-11	14-1	"	64,430		
15	由良	"-5	1923-3	13-9	"	69,600		
16	夕張	1922-6	"-7	13-5	2,890	72,490		
17	五十鈴	1920-8	"-8	13-4	5,170	77,660		
18	川内	1922-2	1924-4	12-8	5,195	82,855		
19	阿武隈	1921-12	1925-5	11-7	5,170	88,025		
20	神通	1922-8	"-7	11-5	5,195	93,220		
21	那珂	"-6	"-11	11-1	"	98,415		

「ロンドン」海軍條約摘要参考艦船表

四 ワシントン海軍軍備制限条約廃止通告ニ関スル  
枢密院下審査ノ要旨